

「豊かなコミュニケーション」指導の手引き

＜初級編・中級編・上級編＞

発刊にあたって

特定非営利活動法人
東京都中途失聴・難聴者協会
理事長 新谷友良

東京都中途失聴・難聴者協会は、2014年（平成26年）に日本財団の助成で「豊かなコミュニケーション」指導の手引＜入門編＞を刊行しました。また、同時にこの指導書を使用して「中途失聴・難聴者対象 手話指導者養成講習会」を2014, 2015年の2年間に亘って開催しました。この成果は、今年から実施されている東京都主催の「手話指導者養成クラス（中途失聴・難聴者向け手話指導）」に引き継がれています。そして今回、手話指導のより一層の充実のために、日本財団の助成を得て「豊かなコミュニケーション」指導の手引＜初級～上級編＞を刊行する運びとなりました。

この結果、東京都中途失聴・難聴者協会が発行する手話学習の教材・指導書は以下の通りとなります。

- ①「豊かなコミュニケーション」
- ②「続豊かなコミュニケーション」
- ③「豊かなコミュニケーション」指導の手引＜入門編＞
- ④「豊かなコミュニケーション」指導の手引＜初級～上級編＞

「豊かなコミュニケーション」の初版は1999年に発行されていますので、必要な学習教材、指導書の整備に20年近い歳月を要したことになります。その間の東京都主催の「中途失聴・難聴者手話講習会」や当協会主催の「手話講習会応用クラス」のスタッフ、手話対策部の努力は非常なものがあり、今回の指導書刊行に至るまでの関係者の弛みのない活動に深い敬意を表します。

毎回繰り返しますが、私たち中途失聴・難聴者にとって手話は外国語です。そのため、学習にあたってはさまざまな課題があり、私たちに分かりやすい手話指導に加えて、ピアカウンセリング・ピアメンタリング、情報保障（要約筆記）の準備など健聴者対象の手話指導とは異なった取り組みが必要となります。また、初級・中級・上級と手話学習の進み具合に合わせた手話表現・読み取り技術の向上も大きな課題となります。「豊かなコミュニケーション」指導の手引＜入門編＞にあわせて是非今回完成した＜初級～上級編＞をご活用頂き、全国各地で中途失聴・難聴者の手話学習がより一層拡大・充実することを期待して発刊の挨拶とさせていただきます。

2016年10月

目次

はじめに	・・・・・・・・	4
〈初級編〉		
I 到達目標、及びカリキュラム	・・・・・・・・	8
II 実技指導		
1. 手話を学ぶ上で覚えておきたい表現（その1）	・・・・・・・・	11
2. 手話を学ぶ上で覚えておきたい表現（その2）	・・・・・・・・	14
3. 短文練習（自然）	・・・・・・・・	15
4. 短文練習（色）	・・・・・・・・	16
5. 短文練習（心理）	・・・・・・・・	17
6. 手話単語（体の部位別）	・・・・・・・・	18
III 練習文例	・・・・・・・・	20
〈中級編〉		
I 到達目標、及びカリキュラム	・・・・・・・・	22
II 実技指導		
1. 短文練習（家庭生活）	・・・・・・・・	25
2. 短文練習（コミュニケーション）	・・・・・・・・	26
3. 短文練習（地名）	・・・・・・・・	27
4. 短文練習（社会生活）	・・・・・・・・	28
5. 短文練習（医療）	・・・・・・・・	29
6. 手話単語（交通機関・公共施設）	・・・・・・・・	30
7. 短文練習（反対語を使って）	・・・・・・・・	31
8. 中文練習	・・・・・・・・	32
III 練習文例	・・・・・・・・	33

<上級編>

I	到達目標、及びカリキュラム	・ ・ ・ ・ 3 6
II	実技指導	
1.	会話の練習（サークルで）	・ ・ ・ ・ 3 9
2.	表現練習	・ ・ ・ ・ 4 0
3.	擬声（音）語・擬態語の表現	・ ・ ・ ・ 4 1
4.	表現練習（手の位置と動き・方向）	・ ・ ・ ・ 4 2
5.	手話の多様性	・ ・ ・ ・ 4 6
6.	長文練習	・ ・ ・ ・ 5 0
III	練習文例	・ ・ ・ ・ 5 1



はじめに

本書『指導の手引き』〈初級編・中級編・上級編〉は、中途失聴者・難聴者の手話テキスト『豊かなコミュニケーション』〈新改訂版〉に対応する形で、以下の方針のもとに編集しました。

◇単語や表現ポイントの解説

先に刊行された『指導の手引き』〈入門編〉は、主に単語の表し方・成り立ちなどを中心に纏めました。その続編である本書〈初級編・中級編・上級編〉では指導にあたっての留意点、表現上の具体的なポイント、有用な情報などをできるだけ多く掲載する方針で構成しました。

限られた紙面の制約上、新出単語の表し方については記載していませんので、各自が*手話辞典で確認のうえ指導にあってください。ただし、手話辞典に掲載のない単語、掲載の表現とは別の表現が一般に普及されている単語、表しにくい単語、表現が似ている単語などは、解説とともに取り上げています。

また、ひとつの手話単語にも、使われ方によっていくつかの日本語が意味づけられるのと同様に、ひとつの日本語に対応する手話単語がいくつかある場合も、それらをできるだけ提示し、文意に合った単語を選択できるようにしました。

例文の表現ポイントの解説は、本書の利用者が一定の基礎知識を有する者との前提で簡略な記述としました。なお、表し方の説明文では便宜上、右利きの人に合わせた記述にしていますが、左利きの方は逆に考えてください。

◇習得レベルの差

中途失聴者・難聴者の手話講習会は、受講者の年齢・受障の時期・聞こえの状態・就労の有無など、様々な要因から習得レベルの差が生じ、進捗状況や定着度によって指導内容を統一・均等化できない宿命を持っています。担当クラスの状態に応じて、どのレベルに照準を置くか、どこまでどのように指導するか、その判断や見極めは講師に委ねざるを得ないのですが、忘れてならないのは「ひとりも置き去りにしない」という大原則です。

講習会の役割は、手話指導のみならず心理的な立ち直りの支援も当然ながら担いますので、手話指導に傾注するあまり、受講生の心理的負担をさらに重くするようなことがあってはなりません。

レベルの差を踏まえた指導に、時として悩むこともあると思いますが、受講生一人ひとりと向き合い、指導の現場から解決の手がかりを見つけ出し、差の縮小に努めましょう。

◇「日本語対应手話」と「日本手話」

中途失聴者・難聴者は、新たなコミュニケーション手段として「日本語対应手話」を学びます。日本語を第一言語とする中途失聴者・難聴者にとって、日本語の語順通りに話し言葉を手話単語に置き換える対应手話は、馴染みやすく、短期間で習得しやすいということが大きな理由です。

私たちが手話を読み取るときには、残存聴力や補聴器・人工内耳の活用、読話などを併用して文脈を捉えながら理解するので、対应手話であっても自然な表情が伴えば、言葉の綾やニュアンスなども十分に伝え合うことができます。

一方、ろう者の使う「日本手話」は、手指の動きと同時に、視線・眉の動き・首振り・頷きなどを伴って表現され、この手指以外の動作に、受身・使役・命令・問いかけなどの文法的意味を持たせています。また、表現の強弱・遅速・繰り返し、方向や位置、指さし、空間や指の活用などで、ものごとの状況を具体的かつ写像的に表現し、あらゆる感情や概念を自在に伝えます。これらは日本手話の特徴づける重要な要素であり、視覚言語である「手話の特性」といえます。

それぞれの言語としての定義は諸説がありますが、講師として不偏の立場で適切な説明ができるよう、多様な見解を収集し検証する姿勢が求められます。

ろう者も中途失聴者・難聴者も、聞こえに障害を持つ一人ひとりが自分に最も適した手話を選択し、それらを互いに認め、それぞれに合った豊かなコミュニケーションを構築することが肝要です。

◇「手話の特性」の取り入れ

中途失聴者・難聴者の手話講習会では、手話単語の学習を優先した「日本語対应手話」の指導を基本にスタートしますが、対应手話の習得により一定の会話を取り戻した中途失聴者・難聴者も、手話をコミュニケーション手段として使って生活していく中で、より読み取りやすい表現を追求するようになります。

近年、中途失聴者・難聴者の手話講習会では「日本手話」の視認性・省力性に優れた技法を取り入れることに合理性を見だし、語順通りに表す対应手話においても、これら手話の特性を可能な範囲で指導に含むようにしています。

本書でも【表現の工夫】欄を適所に設け、解説を加えながら紹介しています。講師として知っておくべき基礎知識であり、将来的には習得すべき表現技術として掲載しました。さらに読み取りやすい表現を求める受講生には有用な情報です。ただし、これらを指導する際には、表現の困難さに受講生が委縮するようなことのないよう、場合によっては紹介だけにとどめるなど、受講生の技量や理解度の見極めが必要です。

◇「中途失聴者・難聴者対象手話講習会」の担う使命

人生の途中で障害を受けた私たちには、それを受け入れるまでの葛藤や心理的プロセスがあります。生まれてから当たり前前に話をしてきた人が、障害を受けてもなお「これまで通りの会話を続けたい、一日も早く取り戻したい」と切望するのはごく自然なことです。そして、この願いに応えるのが中途失聴者・難聴者の手話講習会であり、早期の習得を目指すには、「日本語対応手話」の指導が最も有効なのです。

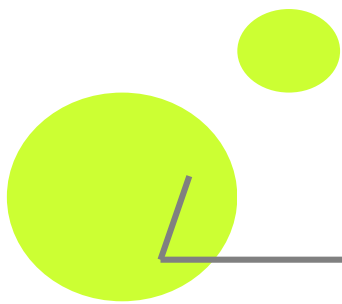
話し相手の言葉の聞き取りに確信が持てず常に不安を抱え、筆談によってコミュニケーションする中途失聴者・難聴者が、対応手話に出会いその手話によって将来への希望を見だし救われた、という多くの事実が厳然としてここにはあります。

中途失聴者・難聴者の手話講習会の担う使命は、早期のコミュニケーション復活を契機に、人としての尊厳を取り戻し、社会との関わりを再生することだと考えます。

なぜ、私たち中途失聴者・難聴者は「日本語対応手話」を学ぶのか、講師自身が十分に考察し、自分の使う手話に誇りと信念を持って指導に臨みましょう。

中途失聴者・難聴者対象の手話講習会では、現場講師の臨機応変な対応や判断を要する場面が多くあります。本書が、そのような場面に直面した際の「真の手引き」になれば幸いです。

*手話辞典—中途失聴・難聴者の手話講習会で指導する手話は「全日本ろうあ連盟出版局」発行の手話辞典等に掲載される標準手話の表現に準拠します。
その他に地域で広く使われている表現があれば、併せて指導します。



初級編



到達目標、及びカリキュラム

到達目標

- ◇ 手話の基本を学びましょう。
- ◇ 使用頻度の高い単語を覚え、仲間との会話ができるようにしましょう。

表現技術… 単語の表現学習からステップアップし、初級では話し言葉として慣習的に使われるフレーズの手話表現を学びます。また、位置関係や方向、指さし、表し方の強弱・緩急など視覚イメージをもとに表現することで、ものごとの様子や程度が具体的に伝わることを学びます。

習得語彙数… テキストからは、235語の新出単語を学びます。中途失聴者・難聴者にとっては、できるだけ早くたくさんの手話単語を習得することが、コミュニケーション復活の早道、第一歩になるともいえます。テキスト掲載語のほかにも日常生活でよく使う言葉を選出し、例文などに盛り込んで指導します。

カリキュラム

入門課程の指導には、情報保障（要約筆記）が必須ですが、初級以降における情報保障の有無は、地域事情によって異なります。右のカリキュラムは、情報保障の付かない講習会を想定して構成しています。スタート時は、受講生の読み取りへの不安に配慮して入門の復習を中心に余裕を持って進め、要約筆記のない状態に慣れるのを待ちます。復習だけではモチベーション低下に繋がりがねないので、途中から初級の新しい学習と組み合わせ、徐々に初級の学習中心に移行します。指文字や数の表現も毎回短時間でも復習できるよう、練習時間を調整しましょう。他に、難聴講師や助手の体験談など、同障者としての共感を得る機会を創出することも大切です。

＜ カリキュラム～初級編 ＞

テキスト「豊かなコミュニケーション」初級編は、
合計40時間（1講座2時間×20回）で修了することを想定し作成しています。
講座の回数は、開・閉講式の有無などそれぞれの地域の状況に応じて調整しましょう。

回数	テキスト	学習の目標
1回	開講式・オリエンテーション	初級学習のねらいと進め方・自己紹介等
2回	・入門テキストの復習－1	「さあ、手話を使ってみましょう」
3回	・入門テキストの復習－2	「自己紹介してみましょう」「地名」
4回	・入門テキストの復習－3 「1. 手話を学ぶ上で…(その1)」①	「人物」「数の表現」 1.可能・不可能を意味する手話
5回	・入門テキストの復習－4 「1. 手話を学ぶ上で…(その1)」②	「時の表現」 1.可能・不可能を意味する手話(復習)
6回	・入門テキストの復習－5 「1. 手話を学ぶ上で…(その1)」③	「趣味」「職業など」 2.必要・不必要を意味する手話
7回	・入門テキストの復習－6 「1. 手話を学ぶ上で…(その1)」④	「疑問文」 2.必要・不必要を意味する手話(復習)
8回	「1. 手話を学ぶ上で…(その1)」⑤	3.願望・希望・忌避を意味する手話 4.容易・困難を意味する手話
9回	「1. 手話を学ぶ上で…(その1)」⑥	5.容認・禁止を意味する手話
10回	「1. 手話を学ぶ上で…(その1)」総復習	今までに習った単語や身近な言葉を使い反復練習
11回	「2. 手話を学ぶ上で…(その2)」①	慣習的に使われる手話表現を学ぶ
12回	「2. 手話を学ぶ上で…(その2)」②	正確に身につけるようにする
13回	「3. 短文練習(自然)」	自然に関する手話表現を学ぶ
14回	「3. 短文練習(自然)」	学んだ手話で会話ができるようにする
15回	「4. 短文練習(色)」	身近な色の表現を学ぶ
16回	「4. 短文練習(色)」	学んだ手話で会話ができるようにする
17回	「5. 短文練習(心理)」	心理の表現、表情や強弱をつけて表すことを学ぶ
18回	「5. 短文練習(心理)」	学んだ手話を会話ができるようにする
19回	「6. 手話単語(体の部位別)」	手話は表す位置が大切なことを学ぶ
20回	「6. 手話単語(体の部位別)」	総合的な復習を行う
21回	～予備日～	調整・補習等
22回	修了式、進級案内	修了証書授与・進級に向けてのガイダンス

学習の目標

指導の進め方

1. 可能・不可能を意味する手話

1. 入門で学んだ〈大丈夫〉〈難しい〉の手話は、動詞に続けて

「〇〇できる」「〇〇できない」として使われることを説明する。

例：（行く+できる=行ける）（買う+できない=買えない）

2. 例文(1)～(6)で表現がわからない単語を聞き出し、表現指導する。

3. (1)から順に、全員で表現してみる。

4. 二人一組でペアになって表現練習する。

●動詞に可能・必要・願望・容易などの手話を組み合わせた表現や容認・禁止の表現を学ぶ。

1 手話を学ぶ上で覚えておきたい表現（その1）

- ◇ 手話表現には、慣習的な決まりがいくつかあります。主だったものを短文で練習してみましょう。
（その1）の他に、（その2）にあるような、決まりもあります。実際に会話をする中で、徐々に身につけていきましょう。

1. 可能・不可能を意味する手話

できる・大丈夫 できない・難しい



右手指先を左胸と右胸に順に当てる。



右手の親指と人差指で額をつねるようにする。

- (1) あなたは、手話できますか？
簡単な手話ならできます。
- (2) 明日の午後、お会いできますか？
4時過ぎなら、大丈夫です。
- (3) 今度の土曜日、映画を観に行けますか？
ええ、行けます。楽しみにしています。
- (4) この問題は、とても難しい。
- (5) 私は、まだ手話の読み取りができません。
- (6) この本は、高く買えません。

1. 可能・不可能

(1) (できます)か？

掌を出す〈質問〉、または、首をかしげて問いかけの表情。

(簡単な手話)なら

「なら」は〈場合〉で指導し、〈仮〉の表現もあることを補足説明する。

(2) (4時過ぎ)なら

この場合の「なら」は〈場合〉、または、口形だけでもよい。

(3) (映画を)観に

右欄の「見る」三つの表現を説明し、ここでは①で表現する。

ええ、…

頷きで表す。

(4) とても

一般的な表現〈大〉で指導する。

（親指を人差指につけ右に引きながら立てる〈非常に〉の表現もある）

(5) 読み取り

目の位置に表現する。

●「できない」は、〈両拳を上下に重ね左右に引く〉表現もあるが、この単元ではテキストに掲載したイラスト〈難しい〉の表現で指導する。

「見る」三つの表現
①親指・人差指の輪(目)で表す。
②人差指で表す。
③人差指と中指の先を前に向けて表す。

留意点

○要約筆記のスクリーンがなくなると、受講生が不安になるので、ゆっくり丁寧な手話表現や説明を心がけ、話の内容が理解できているかを確認しながら進める。板書や掲示物、筆談、助手のサポートなども十分活用する。

指導の進め方

【表現の工夫】

2-(3)帰らなくては
(方向)

2-(4)家から駅まで
(位置関係)

3-(3)(両親)には
(指さし)

表現の手本を示しながら、繰り返し練習する。

●<必要>の表現では、両手の指先を胸につける回数を聞かれることが多い。一回が基本だが、発語のテンポに合わせて二回つける表現も広く受け入れられている。

●「〇から〇まで」は、場所だけでなく期間にもよく使われる表現なので十分に練習すること。

〔〇日から〇日まで
〇時から〇時まで
※「から」を、人差指<~>で表す表現もあるが、受講生が混乱するのでここでは触れないでおく。〕

2. 必要・不必要を意味する手話

1. 新出単語<必要>と<不必要>の手話表現を指導する。
2. 例文(1)~(4)で表現がわからない単語を聞き出し、表現指導する。
3. (1)から順に全員で表現してから、ペアで練習する。

3. 願望、希望・忌避を意味する手話

1. <好き><嫌い>は、動詞につなげると、「〇〇したい、〇〇して欲しい」「〇〇したくない」を意味する表現になることを説明する。例:(見る+好き=見たい)(会う+嫌い=会いたくない)
2. 例文(1)~(5)で表現がわからない単語を聞き出し、表現指導する。
3. (1)から順に全員で表現してから、ペアで練習する。

2. 必要・不必要

(2)お楽しみに

<楽しい/会/のとき>

(3)(夕方5時)までに

<(夕方/時計指して/五)/まで>
帰らなくては…

<帰る/必要>。帰る方向に注意。

(4)あなたの家から駅まで

「から」は、右掌を左に払う表現。

「まで」は、<最後>で表す。

<あなたの家>を右空間に、

<駅>を左空間に置くと表しやすい。

3. 願望、希望・忌避

(2)夏休み

<夏/休み(2回)>

2年振り

期間を強調する表現で指導する。

<二年(右二指で左拳を一周してから上に置く)/別れる>

(3)(両親)には

両親を表現した空間を<指さし>、「誰に?」を明確にする。

(4)体調

…<体/具合><体/様子>二つの表現。

誰にも …<誰/みなさん>で表現。

(5)(個人的な)こと…「こと」は意味を考え、<内容>で表す。

あまり …<過ぎる>で表現。または、手話は使わず表情と口形だけでもよい。

2. 必要・不必要を意味する手話

要る・……ねばならない 要らない



四手のコの字形を
手前に引き寄せる。



手前に引き寄せた両手
を前に奥早く出す。

(1) この申込書には、印鑑が必要ですか？
はい、必要です。

(2) 明日のお楽しみに、お弁当は
要りますか？
いいえ、要りません。

(3) 今日は、夕方5時までに帰らなくては
なりません。

(4) あなたの家から駅まで、何分
かかりますか？
歩いて、10分くらいです。

3. 願望、希望・忌避を意味する手話

……たい・……て欲しい ……たくない

*忌避とは、嫌って避ける、という意味



右手親指と人差指を
のどに当て、下におろしながら開じる。



人差指と親指を開じた
手ののどに当て、前に
動かさずぱつと開く。

(1) 見たいと思っていた番組に
やっと字幕が付きまして

(2) 夏休みに、2年振りに帰省したいと
思っています

(3) 両親には、長生きして欲しいと思います

(4) 今日は体調が悪いので、
誰にも会いたくない

(5) 個人的なことは、あまり話したくない。

指導の進め方

4. 容易・困難を意味する手話

1. 新出単語〈…やすい(スムーズ)〉の表現を指導し、
〈難しい・できない〉を「○○にくい」の意味で使うことを説明する。
2. 例文(1)~(4)で表現がわからない単語を聞き出し、表現指導する。
3. (1)から順に全員で表現してから、ペアで練習する。
4. 右欄の【表現の工夫】を皆で考え、出された表現を練習してみる。

5. 容認・禁止を意味する手話

1. 新出単語〈構わない〉〈だめ・いけない〉の表現を指導する。
2. 例文(1)~(3)で表現がわからない単語を聞き出し、表現指導する。
3. (1)から順に全員で表現してから、ペアで練習する。

【表現の工夫】

4. 容易・困難

- (1)字が大きくて
- (3)雪の積もった
- (4)よく食べる

下線部は、どのように表現したら状態が伝わりやすいか、皆で考えてみよう。

※具体的表現

4. 容易・困難を意味する手話

……やすい	……にくい
-------	-------

(1) この本は字が大きくて 読みやすいです。
右手人差指を頬に出す。前を出す。

(2) このペンはとても書きやすいので、
大事にしています。
右手の親指と人差指で輪をつねるようにする。

(3) 雪が積もった道は、歩きにくいです。

(4) 弟はよく食べるのですが、
太りにくい体質のようです。

5. 容認・禁止を意味する手話

構わない・いい	だめ・いけない
---------	---------

(1) この資料をコピーしても構いませんか？
はい、いいですよ。
右手小指をあごに2回当てる。

(2) ここでタバコを吸っても構いませんか？
いいえ、だめです。

(3) お酒を飲むのはいいのですが、酔っ払って
周囲に迷惑をかけるのは、いけません。
人差指でXを書く。

- 39 -

4. 容易・困難

「…やすい」の表現は、下の例のように〈簡単〉で表す場合もあるが、テキストの例文では〈スムーズ〉の表現に統一して練習する。

例) 運転しやすい車。

柔らかくて食べやすい。

(3) 歩きにくい

先に表した〈道〉の上で
〈歩く/難しい〉を表現する。

5. 容認・禁止

「いい」の表現は、「それ、いいね」のように〈良い〉で表すものもある。文脈や意味に合わせて手話を選択することを説明する。

「だめ・いけない」の表現は、他に〈親指を前に出す・両手を交差させる〉などもある。

(1) コピー

左掌は、上向き・下向きどちらでもよい。

●表現のわからない単語を聞きだすときには、指文字で表すように促し、学習時は覚えた手話や指文字を使うことを習慣付ける。

●一つの言葉に、いくつかの手話表現を指導したときは、受講生が迷わないよう一般的な表現に統一して表現練習を行う。

復習

「手話を学ぶ上で覚えておきたい表現(その1)」のテキストの学習が終わったら、p.20の練習例文を使って表現の復習を行いましょう！

学習の目標

◇ 慣習的に使われる手話表現を学ぶ。

指導の進め方

●この単元は講師作成の例文や p.20 の練習例文などを使って指導する。
●指文字や数の表現を忘れないよう、毎回少しずつ復習時間を用意する。担当者を決め自主的に楽しく継続できる練習方法などを検討する。

1. 1～7の各単語を、説明を加えながら順に表現指導する。
2. p.20 の練習例文(または講師作成の例文)をプリントにして配布。例文の中で表現が分からない単語を聞きだし、表現を指導する。
3. 全員で練習後にグループやペアになって練習、表現発表をする。

1. 推量

推測・伝聞の場合はく右二指で「！」を空書>で通用する。

2. 完了(二通りの表現)

- ①<終わり>
- ②<両掌を前に倒す>

3. 仮定

「…ならば」は、意味に合わせ<場合>で表すこともある。

4. 打ち消し

「ない」は、意味に合わせて多様な表現をするが、ここでは代表的な二つを指導する。※左欄を参照。

5. 命令

強い表情で表すように促す。

6. 句や文をつなぐ手話

<ので(順接)>…口形をつければ省くこともできる。

<しかし(逆接)>…省くと意味不明になるので省かずに表す。

7. その他、慣習的…

掲載語を使った短文を受講生が作成し手話で発表するのよい。

2 手話を学ぶ上で覚えておきたい表現（その2）

1. 推量を表す手話

……らしい ……だろう ……かもしれない
……ようだ

2. 完了を表す手話

……た。 (……ました。)

3. 仮定を表す手話

もし……ならば、……。 仮に……

4. 打消しを表す手話

……ない。 いいえ

5. 命令を表す手話

……なさい。

6. 句や文をつなぐ手話

○前文を肯定する手話 ……ので、……だから
○前文を否定する手話 ……、しかし ……けれども ……ですが

7. その他、慣習的に使っている手話

……また (……とか) ……つぎに ……それから
……の時、(……の場合) ……ところで ……として
……について ……のために

- 40 -

●「ない」の表現

①<片手を振る>
(打ち消し)

- ・行かない
- ・食べない
- ・言わない

②<両掌を翻す>
(無い)

- ・お金が無い
- ・時間が無い
- ・予定が無い

～ 例文を作成する際の留意点 ～

受講生の表現力に合わせ、手話表現しにくい言葉や言い回しを避けて考案します。指導のテーマを適切に盛り込めたか、手話表現しやすい文章か、日本文として違和感がないかなどを検証し、必ず指導場面のシミュレーションを行った上で作成完成とします。

学習の目標

◇ 視線や顔の向きに注意して表現することを学ぶ。

指導の進め方


1. 枠内の単語の表現を指導する。
2. 短文中の表現が分からない単語を聞きだし、表現を指導する。
3. 右欄の【間違いやすい表現】を解説し、表現を確認する。
4. 全員で表現してから、グループまたはペアで反復練習をする。
5. 下の【応用練習文】を使って表現の練習をする。

3 短文練習（自然）

◇ 自然に関する言葉は、日常会話に欠かせません。よく使われる言葉の表現を覚えましょう。


春・夏・秋・冬・四季・空・天気・晴れ・曇り
雲・雨・雪・梅雨・台風・雷・空気・太陽・星
海・滝・森・林・地震・災害・水不足・火事

冬




両手を握り締め体を震わせる。

空



右手で頭上に空を描く。

雷



親指と人差し指をつまんで両手を上から勢いよくギザギザを描きながらおろす。

◇ 短文

- (1) 明日は、晴れ（くもり・雨・雪）だろう。
- (2) 今年の冬（夏）は、暖かい（寒い）。
- (3) 山の澄んだ空気は、気持ちが良い。
- (4) 私の家の近くには、森や林があります。
- (5) 日本の自然は、四季がありとても美しい。

◇ 覚えた単語を使って、会話をしてみましょう。

【応用練習文】

1. 好きな季節は何ですか？
2. 夏の青空もいいですが、私は爽やかな秋晴れの空が大好きです。
3. 雨が降らない梅雨は、水不足が心配ですね。
4. 日本には、きれいな滝や湖や池がたくさんあります。
5. 台風や地震などの災害が起きたときは、速やかに避難しましょう。

【間違いやすい表現】

- ・春と秋
- ・空と天気と晴れ
- ・曇りと雲
- ・星と電気
- ・地震と新潟

- 「春は、暖かい」
- 「夏は、暑い」
- 「秋は、涼しい」
- 「冬は、寒い」

などのように、同じ手話を続けて表現する場合、単調に手話だけの連続表出では意味が伝わらない。具体的イメージを描写するような仕草や表情をつけて表すと伝わりやすい。

(1) だろう

<右二指で！を空書>
または<夢>で表す。

(2) <季節>の表現

下の留意点の内容も含めて
四季の表現を指導する。

(3) 気持ちが良い

<爽やか>（胸をさする）

(4) 家の近くには、森や林が

<家／近い／場所>または、
<家／周り>で表現し、
「家の近く」を表現した空間に
<森／林>を表す。
位置関係に留意した表現。

(5) 日本

一般的な表現<左右を引き離す
表現>で指導する。
※本州を模る表現<左右を斜め
上下に引き離す>であることを
補足説明する。

学習の目標

◇ 生活の中で見られる色の手話表現を学ぶ。

指導の進め方

1. 枠内の単語の表現を指導する。
2. 枠内の単語以外で受講生の知りたい「色」を聞き、表現を指導する。
3. 短文中の分からない単語を聞きだし、表現を指導する。
4. 全員で表現してから、グループまたはペアで反復練習をする。
5. p.20 の練習例文を使って表現練習をする。

●国旗に使われている色の手話表現や、国名を指文字で表すなども楽しく学べる。

●「銅」「紺」「ベージュ」や「深みのある」「落ち着いた」などの表現はよく質問されるので予め準備しておく。

【表現の工夫】
短文(5)の「一面に咲く」は、言葉通りの表現でもよいが、眼前にラベンダーがたくさん咲いている様子を具体的に描写すると見てわかりやすい。
＝広範囲の平面上に「咲く」を複数回表現する。

※具体的表現

(1) 薄い

<薄い・薄い>は同じ表現。

<濃い>も表現指導する。

(2) よく似合います。

<とても・本当／似合う>、

または<似合う>をゆっくり表情豊かに表す。

(3) 運動会で

<運動／会／とき>

(4) 山々は、

遠くを見るような視線で。

(5) ラベンダー

指文字「ラ」で水平に半円描き、指先を鼻に付ける。

一面に咲くと

<一面(掌を下に向け水平に一面をなぞる)／咲く>

じゅうたんのようです

<じゅうたん／似ている、または同じ>

4

短文練習（色）

◇ 最近、カラフルな色があふれています。全ての色に手話表現があるわけではありません。指文字で表すこともあります。ここでは主な色の表現を覚えましょう。

赤・白・黒・黄・青・緑・茶・紫
オレンジ色・グレイ・ピンク・金・銀



すばめた両手を合わせてひねる。



右人差指で唇を指差し、左へ引く。



右手指先で髪のをさわる。



右手親指と人差指で作った丸をひる。

◇ 短文

- (1) 私の好きな色は、**薄い**ブルーです。
- (2) 彼女は、ピンクの服が**よく似合います**。
- (3) **運動会で**、赤組が優勝しました。
- (4) 五月の**山々は**、新緑で美しい。
- (5) **ラベンダー**が**一面に咲くと**、紫色の**じゅうたんのようです**。

◇ 覚えた単語を使って、会話をしてみましょう。

— 42 —

留意点

○テキストに掲載されている色以外にも、新しい手話表現が作られているので、必ず辞書などで確認しておくこと。

学習の目標

◇ 表情や表現の緩急で微妙な心理を表すことを学ぶ。

指導の進め方

1. 枠内の単語の表現を指導する。
2. 短文中の表現が分からない単語を聞きだし、表現を指導する。
3. 下の【類似表現に注意】を解説し、表現を確認する。
4. 全員で表現してから、グループまたはペアで反復練習をする。
5. p.20 の練習例文を使って表現練習をする。

●「心理」は、主に中途失聴・難聴者が表すく左胸に人差し指で円を描き／指文字「リ」>で指導する。
※ろう者は、「心」は腹(みぞおち)にあると考えるため腹で表す。それぞれの「心」の概念の違いが手話表現にも現れて興味深い。

【表現の工夫】
短文(3)の「財布を忘れてしまい…」は、具体的に表現すると、状況がわかりやすくなるが、実際に話しながら手話表現してみると、言葉と手の動きが一致せず、難しいことに気づく。
※日本語対应手話と日本手話は語順が異なるためであることを説明し、具体的に表現を練習する際は、声を止めるなどの配慮をする。

5 短文練習（心理）

◇ 音声語では、口調やイントネーションで言い表している部分を見てわかるように、表現に気持ちを込めて表してみましょう。

恥ずかしい・珍しい・怖い・不思議・寂しい・我慢する
諦める・優しい・厚かましい・ずるい・あわてる・おどろく
ひがむ・うらやましい・飽きる・がっかり・不満・ほっとする

恥ずかしい



顔の前で右手し指をすぼめたり
開いたりを繰り返す。

ずるい



右手甲を左頬にこすりつける
ように上下させる。

あわてる



上に向けた両手を交互に上に
あげていく。

◇ 短文

- (1) **雷**は、怖くて嫌いです。
- (2) 妹は、**明るい性格**なのでうらやましいです。
- (3) あわてて家を出て、**財布を忘れてしまいました。**
- (4) **体調**が悪い時は、我慢しないで言って下さい。
- (5) 息子が高校の入学試験に**合格**したので、ほっとしました。

◇ 覚えた単語を使って、会話をしてみましょう。

- 43 -

【類似の表現に注意】

- ・<怖い>と<冬>
- ・<ずるい>と<大切>
- くもったいない
- くおいしい

(1)雷

指先を前方に向けて表現する。

(2)明るい性格

光の明るさとの表現の違いに注意。

(3)財布を忘れてしまいました。

<財布／忘れる>。または<財布／無い／忘れる／家を指さす>と具体的に表現するとわかりやすい。

(4)体調(二通りの表現)

<体/具合><体/状態>

言ってください。

<(相手→自分)言う／(自分→相手)お願い>方向に注意。

(5)合格

合格ラインを表す左手は固定して、右手だけを上げる。

留意点

○中途失聴・難聴者の手話は“無表情”と指摘を受けることが多い。心理の表現は、心の微妙なニュアンスが含まれるので、特に表情や、表現の大きさ・強弱などが大切。恥ずかしがらずに表現できるようにしたい。

学習の目標

●この単元の掲載単語は、既に指導済みのものと、新出単語が混在しているが、既習単語もあいまいに覚えている受講生が多いので、復習を兼ね一語ずつあらためて表現指導する。

●顔の前で表す＜意外＞は、「初めて知った！」などを意味する感動詞「へえ・ほう」として使われることが多い。想定外を意味する「意外」の場合は、＜思う／外れる＞で表現する。

●＜負ける＞は、親指を立てた両拳を突き合わせる＜勝負＞から派生した表現もあるが、ここでは顔の位置の表現を指導する。

◇ 手話は表す位置が大切なことを学ぶ。

手話は、①手の形、②表す位置、③手の動き の三つの要素が結合して、一つの意味のある言葉（単語）になる。いずれも手話表現上では重要な要素であるが、ここでは＜表す位置＞をテーマに体の部位別に学習する。

※＜平気＞＜後悔＞は、テキストに掲載されている表現の位置と異なる表現説もある。受講生の質問に備え、予め確認しておくこと。（ページ下の欄参照）

A

つまらない

＜負ける＞との表現の違いを確認する。

個人（二通りの表現）

- ①両手指文字「モ」で顔をなぞる。
- ②両手人差指で顔をなぞる表現。

大学（二通りの表現）

- ①両手親指と人差指で角帽の角を摘まむ表現。
- ②両手人差指で角帽の形を表現。

病気

拳を額に二回つける。
一回つけると＜～病・～症＞

B

間違い（二通りの表現）

- ①右手二指を右目で反転する。（目の上下を間違う）
- ②両手親指と人差指で＜誤解＞の表現。（右目と左目を間違う）

6 手話単語（体の部位別）

◇ 表現する時、体のどの位置で表すか、部位別に整理しました。これらの他にも、まだいろいろあります。皆で出し合ってみましょう。

A

顔 …… つまらない 個人 意外 負ける

豆 …… 覚える 困る 黒 大学 意見

名 …… 昼 迷惑 病気 若い 知識

B

目 …… 夜 珍しい 驚く 見る 間違い 調べる

鼻 …… 良い 悪い 古い ひがむ 平気 得意 苦手

舌 …… 難しい うそ 趣味 誰 美味しい スムーズ

●＜平気＞の表現

※＜参考図書はいずれも「全日本ろうあ連盟」出版局＞

『わたしたちの手話・学習辞典』…「右手指先を鼻に向け、素早く左方へ横切らせる」と記載。
『手話の知恵・大原省三著』…目の前を横切る表現が、その由来とともに記載。

●＜後悔＞の表現

『わたしたちの手話・学習辞典』…「右手小指側で右胸上部を叩く」と記載。
『手話の知恵・大原省三著』…肩・首の付け根の位置を叩く旨の記載。

指導の進め方

1. 左ページの手話表現の三要素をあらためて説明する。
2. **A** 顔～額、**B** 目～頬、**C** 口～喉、**D** 胸～腕の4ブロックに分けて指導する。
3. **A**ブロックの進め方。
 - ・ブロック内の単語を一つずつ表現指導する。
 - ・グループまたは、ペアを組んで、テキスト掲載語以外の手話を各部位ごとに出し合い、出された手話を発表する。
4. **B** **C** **D**ブロックも同様の方法で進める。
5. ページ下の応用練習文1～4を、ペアで表現練習する。
6. 一人ずつ、前に出て手話表現をする。

●単語のみの学習なので単調になりやすいが、ブロックごとのグループ(または、ペア)の話合いでは、楽しく気分転換できるよう工夫して進める。

C	…… 言う 答える 紹介 赤 甘い 辛い 洗い
顎	…… 本当 年齢 構わない 待つ 幸せ 便利 なるほど
耳	…… 質問 補聴器 電話 聞こえない 情報 うるさい
喉	…… 好き 嫌い 声 喉が渇く
D	
胸	…… 分かる できる 楽しい 正しい 仕方ない
腹	…… 面白い 生まれる 腹を立てる
肩	…… 大人 責任 資格 後悔 役立つ 幹部
腕	…… 上手 苦勞 特別 おしゃれ 役員

-45-

C 言う(二通りの表現)

- ①人差指を口元から前に出す。
- ②閉じた全指を口元から開きながら前に出す。

幸せ

顎から下にひくのは一回でよい。
「福祉」はく幸せ/指文字「シ」>

D 資格

指文字「シ」を胸にあてて表す人が多いので注意。

後悔

右手小指側で、右の首付け根をたたく。(右欄を参照)

役立つ

指文字「ヤ」を左肩にあてる。
<立つ>は不要。

役員

<役立つ>と混同する人が多いので注意。

【応用練習文】

1. 彼が個人戦で負けたのは、意外でした。
2. 歌が得意なのだから、スポーツが苦手でもひがまないで下さいね。
3. 補聴器で電話はできますが、周りがうるさいと聞き取りにくいので苦勞します。
4. 正しい手話を覚えると、読み取りも表現もスムーズにできます。

《 初級編一練習例文 》

✦ 「1. 手話を学ぶ上で覚えておきたい表現 (その1)」

1. 連休には、孫に会えるので楽しみです。
2. 散歩は好きですが、遠くまでは歩けません。
3. 明日の交流会は、参加費が必要です。
4. 今日は暖かいので、コートは要りません。
5. 食事の前には、手を洗わねばなりません。
6. 来年は、札幌の雪まつりに行きたいです。
7. 今日は疲れたので、遊びに行きたくないです。
8. 来週のハイキングは、歩きやすい靴で来てください。
9. この薬は、苦くて飲みにくいです。
10. 「会場でお弁当を食べてもいいですか?」「いいえ、駄目です」

✦ 「2. 手話を学ぶ上で覚えておきたい表現 (その2)」

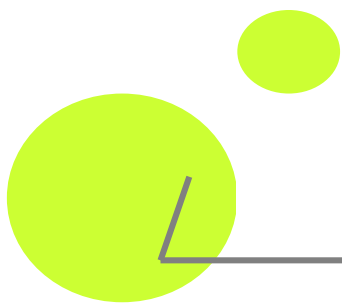
1. 彼女は、手話の勉強を始めたらしい。
2. 今日もまた、部長の話は長いだろうね。
3. 来週の講演会、参加できないかもしれません。
4. 「もし、日曜日に都合がよければ、映画に行かない?」
「行かない。忙しくて時間がないの。嘘じゃないよ」
5. 勉強しなさい! 早く寝なさい! 出ていきなさい!
6. 今日は、会社がお休みなので、買い物に行きます。
7. 運動会は雨でしたが、室内のゲームは楽しかったです。
8. 先日のコンサートは楽しかったですね。また行きましょう。
9. 表現がわからないときは、聞いてください。
10. クラスの代表として、挨拶をお願いします。
11. 手話の語源について、もっと知りたいです。
12. 指文字を覚えるために、毎日練習しました。

✦ 「4. 色」

1. オリンピックのマークは、青・黄・黒・緑・赤の5色です。
2. ぶどうは紫、みかんはオレンジ色、キウイは茶色です。

✦ 「5. 心理」

1. 人生には、我慢も必要です。諦めないで頑張りましょう。
2. 手話を表すときに、恥ずかしがってはいけません。
3. 姉が結婚して、母はほっとしていますが、父は寂しそうです。
4. 好きなものでも毎日食べていると飽きます。



實 技 指 導

〈 中 級 編 〉



到達目標、及びカリキュラム

到達目標

◇ いろいろな場面での会話ができるように、
読み取りにも力を入れましょう。

表現技術… 日常生活の様々な場面を想定した文章の表現を学びます。基本の「日本語対应手話」の表現に加え、状況を具体的に表現する方法、指や空間を代理的に活用する方法、指さしなど、見る言語である「手話の特性」を取り入れた表現を学び、読み取りやすい表現ができるようにします。

習得語彙数… テキストからは、260語の新出単語を学びます。例文には、日常生活でよく使う言葉がたくさん盛り込まれています。使用頻度の高い単語の表現を確実に身に付けることで、会話力を高めコミュニケーションをさらに豊かにすることを目指します。

カリキュラム

中級課程は、短文～中文の表現を中心に学習します。初級に比べると急に文章が長くなり、受講生にとっては、難しく感じられるようですが、これまでに学んだ手話単語が定着していれば、決して困難ではない内容です。テキスト文の長さ慣れるためには、2～4回の初級の復習段階で、少し長めの例文を用いて表現練習しておくといよいでしょう。じっくり時間をかけて丁寧に復習を行えば、受講生もペースを掴み次第に落ち着いてきます。中盤以降、受講生の表現が安定してきた頃に「ショートスピーチ」など、個々の自由な発言の時間を設けると、他の受講生にも読み取り練習を兼ねた学習にもなります。また、適宜、聴覚障害に関する理論講義を挟む、あるいは、可能であれば予備日の時間を利用して外部講師を招いた講演会など開催すると有用な情報提供機会になります。

＜ カリキュラム～中級編 ＞

テキスト「豊かなコミュニケーション」中級編は、
合計40時間（1講座2時間×20回）で修了することを想定し作成しています。
講座の回数は、開・閉講式の有無などそれぞれの地域の状況に応じて調整しましょう。

回数	テキスト	学習の目標
1回	開講式・オリエンテーション	中級学習のねらい、進め方
2回	復習(初級テキスト)－1	「手話を学ぶ上で覚えておきたい表現」(その1.2.)
3回	復習(初級テキスト)－2	「短文練習」(自然・色・心理)
4回	復習(初級テキスト)－3	「手話単語」(体の部位別)
5回	「1. 短文練習(家庭生活)」①	家族や講習会仲間について手話表現する
6回	「1. 短文練習(家庭生活)」②	空間や指さし活用した表現を学ぶ
7回	「2. 短文練習(コミュニケーション)」①	私たちのコミュニケーション手段である手話について学ぶ
8回	「2. 短文練習(コミュニケーション)」②	位置関係・方向に留意した表現を学ぶ
9回	「3. 短文練習(地名)」①	国内の著名な地名の手話表現を習得する
10回	「3. 短文練習(地名)」②	地名の手話の成り立ちや由来を知る
11回	「4. 短文練習(社会生活)」①	難聴者の社会とのかかわりを手話で表す
12回	「4. 短文練習(社会生活)」②	位置関係・役割の切り替えなどを学ぶ
13回	「5. 短文練習(医療)」①	病気に関する表現や医療関連の単語を学ぶ
14回	「5. 短文練習(医療)」②	医療に関する単語を使って会話をする
15回	「6. 手話単語(交通機関・公共施設)」①	生活に密着した交通機関・公共施設の表現を学ぶ
16回	「6. 手話単語(交通機関・公共施設)」②	交通機関・公共施設の単語を含んだ表現を学ぶ
17回	「7. 短文練習(反対語を使って)」①	意味の相反する単語の表現をセットで学ぶ
18回	「7. 短文練習(反対語を使って)」②	反対語を使った短文を作り表現する
19回	「8. 中文練習」①	ストーリー性のある内容を表現できるようになる
20回	「8. 中文練習」②	自分のことを作文し、手話で伝える
21回	～ 予備日～	調整・補習等
22回	修了式、進級案内	修了証授与、進級に向けてのガイダンス

学習の目標

◇ 空間や指さしを活用した表現を学ぶ。

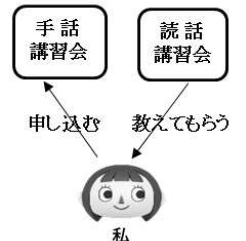
指導の進め方

1. 例文中で表現がわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
2. 例文1. から順に、全員で単語の表現を確認しながら表現練習する。
3. 下の表現ポイントを解説、全員であらためて表現してみる。
4. ペアで表現練習～個人での表現発表。
5. p.33 の練習文を使い、～してもらう(受動態)の表現を練習する。

●中級以降は、単語学習だけでなく、読み取りやすい表現に挑戦することを導入時に伝える。はじめに空間や指さしなどを活用した表現例を紹介し、読み取りやすさを実感させてから学習に入るとよい。(ページ下例文を参照)

【表現の工夫】

例文 3.4.の〈家族〉、5.6.の〈手話講習会〉のように、前述した言葉が繰り返し出てくる場合は、一度表した空間を代理的に指さすことで、簡潔で読み取りやすい表現になる。
※空間の代理活用



私

1 短文練習（家庭生活）

1. 私の家族は、夫と中学生の息子と小学生の娘と私の4人です。
2. 私は6年前のある朝起きたら、耳が聞こえなくなっていました。原因はわかりません。
3. そんな私を、家族はなかなか理解できませんでした。
4. 家族と話をしたいと思って、読話講習会に通いました。
5. そこで初めて同僚の仲間と出会い、中途失聴者・難聴者対象の手話講習会があるのを教えてもらい、申し込みました。
6. 手話講習会では、若い人や年配の友達もでき、今は手話を使って少し会話ができるようになりました。

- 49 -

1. 夫と中学生の息子と・・・

左手指を家族4人に見立てて紹介。

2. ある(或る)

〈自然・起きる〉類似表現を指導。

3. そんな私 〈聞こえない／私〉

4. 家族と話をしたい

〈家族〉は 3.で表した空間を指さし、その位置と〈会話／したい〉

読話講習会に通いました。

〈読話講習会／場所〉。場所(空間)を活用して 5.の「そこで」に繋げ、「手話講習会」との位置関係を作る。〈通う〉方向に注意。

5. そこで・・・出会い

〈そこ〉は 4.の「読話講習会」の空間を指さす。〈出会い〉は 3 回程繰り返す、または相手を全指で表す。

手話講習会

4.で表した「読話講習会」の隣の空間に〈手話講習会／場所〉で表し、私との三角形をイメージする。

教えてもらい、申し込みました

位置・方向に注意。(右イラスト参照)

～ 空間・指さしを活用した表現例 ～

- (1) 今年の家族旅行は、北海道と京都の予定です。北海道は2回目、京都は初めてです。
- (2) 交流会は、お酒を呑むグループと呑まないグループは 会費が違います。
お酒を呑むグループは二千元、呑まないグループは千八百円です。

学習の目標

◇ 相手の位置や手の動き・方向に留意した表現を学ぶ。

指導の進め方

1. 例文中で表現がわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
2. 例文1. から順に、全員で単語の表現を確認しながら表現練習する。
3. 下の表現ポイントを解説、全員であらためて表現してみる。
4. ペアで表現練習～個人での表現発表。

●前頁の単元と同様に、読み取りやすさを意識した表現を試みる。たとえば今はスムーズに表現できなくても、理解ができていれば、読み取りの向上に役立つ。

4. AよりBの方が

<A／もっと／B／方が（指先を下にした右手甲を前方に掬い上げる）>

- ・「A」と「B」は少し左右に分けて表す。
- ・「より」は<比べる>で表してもよい。

8. 時間がかかる

<腕時計を指し／長い・必要>。または<掛け時計の長針・短針をそれぞれ摘まみ、ゆっくり右回りに廻す>表現。



1. 言葉

<こと・単語>類似表現を指導。

2. 相手に「書いて下さい」と言う

…お願い

<相手>は、人差し指または掌で表す。

<書いて下さい><言う><お願い>は、相手の位置に向けて表す。

5. 手の動きを見るだけでなく、口の動きも一緒に読み取り、

<（相手の位置で全指の）手話／見る／だけ／違う／（相手の位置で）口形／一緒に読み取る>

手がかり

<起源・きっかけ>で表す。

6. 確認

<調べる>または、両拳を向かい合わせ、互いに顔を見合う様子。

7. 顔を見ながら

両手二指で <互いに目を見合わせる>、あるいは<面接>で表す。

8. 有効な

<効果>。「有る」は表さなくてよい。

2 短文練習（コミュニケーション）

1. 補聴器をつけても、言葉としては聞き取れない時があります。
2. 相手に「書いて下さい」と言うのは、勇気が要りますが、積極的にお願いしています。
3. 手話を学び始めて、コミュニケーションの大切さを改めて知りました。
4. 手話は技術よりも、相手に伝えようという気持ちで表現することの方が大事です。
5. 手の動きを見るだけでなく、口の動きも一緒に読み取り、理解の手がかりにしています。
6. 手話で会話をする時、正しく伝わっているかどうか、時々確認が必要です。
7. 手話はお互いに顔を見ながら話せるので、気持ちの通った会話ができます。
8. 習得に時間がかかりますが、私たちにとっては、大変有効なコミュニケーション手段です。

～「手話の特性」を取り入れた表現の指導～

難聴講師は、これらの表現技術を習得する機会を得ないまま指導にあたることが多く、理論的に理解していても流ちょうに表現できる人は少ないのが現状。手本の表現に困る場合は、健聴助手に示してもらおう方法などで対応しましょう。難聴講師には、その表現を理論的に解説するための十分な知識や、わかりやすく伝えるための説明技術が求められます。

3 短文練習（地名）

学習の目標

◇ 国内の地名に関する手話表現を学ぶ。

指導の進め方

1. 例文中で表現がわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
2. 例文1. から順に、全員で単語の表現を確認しながら表現練習する。
3. 地名を表現する際のポイントを解説、全員で改めて表現してみる。
4. ペアで表現練習～個人での表現発表。
5. 「歴史上の人物や故事が由来の地名手話」を紹介する。(ページ下参照)

●主な地名の手話は、全日本ろうあ連盟出版局【全国地名手話マップ】参照

【表現の工夫】
例文2. の練習は、お椀に次々とわんこそばを投入する店員と、友達二人が互いの食べっぷりを競い合う様子を、三人一組で、身振りだけで楽しく演じる。
※具体的表現

3 **短文練習（地名）**

1. 娘夫婦が札幌に住んでいるので、来年の雪まつりの頃、遊びに行く予定です。
2. 盛岡名物『わんこそば』を、友達と競い合って食べました。
3. 先週、手話サークルの仲間と2泊3日で佐渡へ行ってきました。
4. 茨城県のつくば市は研究学園都市と言われ、聴覚・視覚障害者のための国立大学があります。
5. 横浜の中華街で食事をしたあと、港の見える丘公園を散歩しました。
6. 中途失聴・難聴者協会の服部さんは、仕事の都合で名古屋へ引越しました。
7. 姫路城と奈良の法隆寺は、日本で初めて世界文化遺産に登録されました。
8. 鉄道のなかった沖縄に、2003年8月那覇空港から首里まで、全長12.9kmのモノレールが開通しました。

- 61 -

1. **札幌に**
地名表現の後には<場所>を置くことを説明する。<札幌/場所>
4. **つくば・国立大学**
筑波山の男体山・女体山で表す。「筑波技術大学」を紹介する。
5. **中華街**
<中国/人出が多い(両掌を向かい合わせ交互に前後させる)>
6. **名古屋へ引越しました**
<名古屋>の位置に<引越す>
7. **姫路城と奈良の法隆寺**
左右の空間に分けて表す。
8. **鉄道のなかった…**
<電車/電車空間を掌で払う(存在しないの意)、または無い>
※はじめに<以前>を表すと、かつては無かったことがはっきりする。
那覇空港から首里まで、
<那覇空港>と<首里>を左右に表し「から」は手話を省略して口形だけで良い。「まで」は二つを挟む<間>で表現するとわかりやすい。

●例文7<法隆寺>
地元奈良では、法隆寺を建立した聖徳太子の幼少時の束帯姿で表す。
<首の前で、右人差し指を上に向け、左手C形の内側をなぞりながら廻す+寺>～大人の束帯を着用した為、襟首がブカブカの状態。
奈良県聴覚障害者協会発行「奈良の手話」より

~~~~ 歴史上の人物や故事が由来の地名手話 ~~~~

「神戸」・・ 神戸は楠木正成を祀る神社の所在地。楠木の旗印(菊・水の紋)から。  
 「仙台」・・ 初代藩主、伊達政宗の兜の雄大な弦月の前立て(兜の飾り=月)から。  
 「会津」・・ 故郷会津を守るために闘った少年達、白虎隊が切腹した様子から。

## 学習の目標

◇ 中途失聴・難聴者と社会とのかかわりを手話表現する。

## 指導の進め方

●難聴者の日常生活に関連する内容なので、見慣れた言葉が多いが、正しい表現が定着しているかどうか確認しながら進める。

1. 例文中で表現がわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
2. 1. から順に、全員で単語の表現を確認しながら表現練習する。
3. 下の表現ポイントを解説、全員で実際に表現してみる。
4. ペアで表現練習～個人での表現発表。

## 1. 私が住んでいる所は、

自分に近い位置で表す。〈駅〉から歩く方向や、近くの〈福祉センター〉との位置関係を考えて表す。

## 2. 小学一年生

〈小ノ左拳の上に右手一を当て右に引く〉

## 保護者会

〈両親ノ会〉で表す。

## 3. 「絶対来てよ」と…

※左欄を参照。

## 5. 自信がない

〈自信ノ(両掌で)無い〉。「信じない」「信じられない」も指導する。

## 6. 心がけています。

〈心ノ準備〉または〈注意〉

## 7. 「こんにちは」と返して…

「こんにちは」は、左欄を参照。

「返してくれました」は、相手から

自分に向けて〈表現〉で表す。

## 【表現の工夫】

## 3. 「絶対来てよ」

(息子→自分に言う)

## 7. 「こんにちは」

(相手→自分に言う)

例文の話者は、母親だが、途中の台詞だけを目線や上体の向きを変え、あたかも(息子・相手)が話しているようにその人になりきって表現する方法。

※役割の切り替え(難度の高い表現なので、読み取りやすい表現方法の一つとして紹介するだけでもよい)

## 4 短文練習（社会生活）

1. 私が住んでいる所は、駅から歩いて7分くらい、近くに障害者福祉センターがあります。
2. 今度の日曜日、小学一年生の長男の授業参観と保護者会があります。
3. 息子は「絶対来てよ」と言っていますが、難聴の私はいつも迷います。
4. 思い切って、区役所の福祉課に相談に行くと、要約筆者や手話通訳者の派遣制度を教えてくださいました。
5. 手話の読み取りはまだ自信がないので、ノートテイクの派遣を依頼しました。
6. 子供のためにも、近所付き合いが大切と思い、いつもにこやかな挨拶を心がけています。
7. 先日、いつものように挨拶をしたら、相手の方は手話で「こんにちは」と返してくれました。
8. テレビを見て覚えたそうですが、手話に興味を持つ人が増えることは本当にうれしいです。

## ～ 「迷い」…動作を途中で数回戻す表現方法 ～

1. 娘は、彼との結婚に決心がつかかねているようです。
2. サークルの一泊旅行、参加しようかな、どうしようかな～。
3. 母の日のプレゼント、高いので買うかどうか迷いましたが、思い切って買いました。

# 5 短文練習（医療）

## 学習の目標

◇ 知っておくべき医療関連の単語の表現を学ぶ。

## 指導の進め方

1. 例文中で表現がわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
2. 例文1. から順に、全員で単語の表現を確認しながら表現練習する。
3. 下の表現ポイントを解説、全員であらためて表現してみる。
4. ペアで表現練習～個々の表現発表。
5. 下枠の医療関連語の手話表現を指導する。

●テキストの学習が一通り終わったら、p.33の「医療にかかわる会話文」を使って表現練習する。

5 短文練習（医療）

1. 病院の総合受付では、手話や筆談で対応してくれる所が増えてきたので助かります。

2. 最近、メニエール病の再発なのか、めまいと耳鳴りに悩まされています。

3. 耳鼻科を受診したところ、疲れとストレスが原因と言われました。

4. 医師は心配ないと言って、7日分の処方箋を書いてくれました。

5. 念のために内科で、血液と尿の検査を受けましたが、異常なしでした。

6. 40歳を過ぎたら、年に一度人間ドックに入った方が良いです。

7. 地域の集団検診を積極的に受けるなど、健康には十分気を付けることが大切です。

---

◇ 医療関連の単語を覚えましょう。

怪我・応急処置・入院・手術・血圧・点滴・花粉症  
 鼓膜・人工内耳・更年期・生活習慣病・栄養・副作用  
 カルシウム・アレルギー・コレステロール・レントゲン

- 53 -

1. 助かります  
受動態の表現。助かるのは誰？
2. メニエール病  
新しい手話を紹介する。一般的には<病/指文字>で通用している。  
悩まされています  
<悩む>。または<苦しい・額を抑える様など>で表現。
3. 受診したところ  
<(受動態)診察/結果>
4. 心配ないと言って  
<心配/不要/(受動態)言う>。  
言うのは誰？方向に注意して表す。  
7日分  
胸の前で<7日/間>
5. 念のために  
<注意・安心/ために>  
異常なし  
<普通/違う/無し>または<大丈夫・問題無い>に言い換える。
6. 40歳を過ぎたら  
<歳/40/突破/(未来)>

●高齢受講生が多いので、医療関連の学習は関心が高い。会話によく出てくる言葉や病名などの手話を紹介する。

- ・頭痛
- ・認知症
- ・脳梗塞
- ・心筋梗塞
- ・糖尿病
- ・肺炎
- ・熱中症
- ・介護

## 留意点

○病名や医療関係の単語は、新しく考案される表現もあるので、指導する際は、記憶に頼らず必ず事前に表現を確認すること。

## 学習の目標

◇ 社会生活と密接に関わる乗り物・施設の手話表現を学ぶ。

## 指導の進め方

●「講習会への交通手段は？」「自宅の周辺にはどんな施設がある？」など受講生へ問いかけ会話を展開する。

1. 「1. 交通機関など」と「2. 公共の施設など」は、分離して指導する。
2. 1.2とも、まず枠内の単語表現を指導する。
3. 次に、下の「交通機関名」「施設名」を含んだ短文の表現練習をする。
4. 左枠の「身近な施設や建物の表現」を指導、受講生はこれらを含んだ短文を作成し、一人ずつ表現を発表する。

## &lt;1. の交通機関を含む短文&gt;

1. 子供は、パトカーや救急車、消防車が大好きです。
2. 最近では地震が多いので、地下鉄やエレベーターに乗るのが怖いです。
3. 今日は、たくさん買い物をしたので、電車ではなくタクシーで帰りましょう。
4. 飛行機や新幹線は、速くて快適ですが、私はのんびりできる船旅が大好きです。

## &lt;2. の施設名を含む短文&gt;

1. 上野公園には、美術館や博物館・動物園もあります。
2. 家の近くには、コンビニやスーパーがあるので便利ですが、役所や郵便局は遠いので大変です。
3. 幼稚園から高校まで私立でしたが、大学は国立です。

## 身近な施設や建物

・図書館 ・税務署  
 ・警察署 ・交番  
 ・保健所 ・喫茶店  
 ・アパート・マンション  
 ・社会福祉協議会  
 ・心身障害者福祉センター

## 6 手話単語(交通機関・公共施設など)

◇ 日常会話では、「○○へ行った」「○○に乗った」などの会話をよくします。さまざまな交通機関、公共の施設等についての手話表現を覚え、短文を作って会話を楽しみましょう。

## 1. 交通機関など

自転車 オートバイ 車 バス タクシー トラック 船

電車 地下鉄 JR 新幹線 飛行機 ヘリコプター 救急車

消防車 パトカー エレベーター エスカレーター ロープウェイ

## 2. 公共の施設など

保育所 幼稚園 高校 大学 役所 ハローワーク

郵便局 ホテル 旅館 公園 トイレ 寺 神社

店 コンビニ スーパー(マーケット) デパート

国会議事堂 裁判所 博物館 美術館 NHK

～ 「(電車で)行きます」「(グループで)行きます」～

日本語では、「バスで行きます」など、乗り物の名前をわざわざ言いますが、手話では<車・飛行機・船>などを目的地に向けて移動すれば、行く手段まで同時に伝えられます。また<二人・三人・集団>などを目的地に移動させると、行く人数などもわかります。

## 学習の目標

◇ 空間、位置関係、方向などを考えた表現を学ぶ。

## 指導の進め方

1. 枠内の単語指導のあと、例文中の表現がわからない単語を聞き出し、一つずつ表現を指導する。
2. 例文1. から順に、全員で単語の表現を確認しながら表現練習をする。
3. 下の表現ポイントを解説、全員で実際に表現してみる。
4. ペアで表現練習～個人での表現発表。

●テキストの学習が一通り終わったら、①下枠の「よく使う反対語」の表現を指導する。  
②p.33「反対語を使った例文」の表現練習をする。

## 7 短文練習（反対語を使って）

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. 安心 — 心配    | 5. 出発 — 到着  |
| 2. おいしい — まずい | 6. 忙しい — ひま |
| 3. 好き — 嫌い    | 7. 賛成 — 反対  |
| 4. 勝つ — 負ける   | 8. 成功 — 失敗  |

1. 夫は帰宅が遅くなる時、心配しないように、必ずメールをしてくれるので、安心です。
2. 母のおいしい手料理を真似て作っていましたが、弟や妹にはまずいと不評でした。
3. 食べ物に好き嫌いがないように、なんでも食べられる子供に育てましょう。
4. 去年はバレーボールの試合に負けてしまったけれど、今年は絶対に勝ちたいので、一生懸命練習しています。
5. 朝9時に出発すれば、お昼頃には目的地に到着しますので、そこで弁当にしましょう。
6. 友達の会社は忙しいようですが、私の職場は不況でひまです。
7. 会議では反対の意見が多かったが、採決を取ると意外にも賛成が多かった。
8. “失敗は成功のもと”、なににごとも勇気を持って挑戦しましょう。

-55-

1. 必ずメールをしてくれる  
＜約束／(夫を表した空間から、自分に向けて)メール＞
2. 手料理を真似て  
母を表した空間で＜手料理＞、そこから自分に向けて＜真似＞  
不評 ＜評判／悪い＞
3. 好き嫌い・・・  
左・右に＜好き・嫌い＞
4. 負けてしまった  
＜負け／残念、または後悔＞  
絶対に  
＜定める・約束・規則を二回＞
5. 目的地・到着・そこ  
三つは、同じ位置で表す。
6. 友達の会社・私の職場  
左右の空間に振り分けて表す。
7. 採決を取ると＜採決／結果＞
8. なににごとも  
＜あらゆる＞の表現。①左掌上に右手小指側を乗せ、左から右へ半回転させる②左掌の上で＜色々＞

●例文1. 3. 6. の「～よう」は、二指で＜!＞を空書する。  
…でしょう、  
…らしい、  
…だろう、  
…みたい  
多分、などもこの表現が使える。

## ～ よく使う反対語 ～

- |           |           |            |             |
|-----------|-----------|------------|-------------|
| 1. 多い⇔少ない | 2. 賢い⇔愚か  | 3. 金持ち⇔貧乏  | 4. 余る⇔足りない  |
| 5. 派手⇔地味  | 6. 損 ⇔ 得  | 7. 硬い⇔柔らかい | 8. 優しい⇔厳しい  |
| 9. 深い⇔浅い  | 10. 広い⇔狭い | 11. 細い⇔太い  | 12. 合う⇔合わない |



## 学習の目標

◇ 中級学習のまとめ、成果を確認する。

## 指導の進め方

●最後の学習なので、あまり細かな注意はせず、自由にのびのび表現できるようリラックスした雰囲気を進め、自信をもって進級できるように心がける。

●例文中の「困ったことや悔しいこと」「落ち込んだこと」の「こと」は、すべて<一>(指文字コ)で表してもよいが、文意に合った手話<経験>を選択して表すと意味が伝わりやすくなる。

1. 例文中で表現がわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
2. 下の表現ポイントを解説、全員で表現した後、ペアでの練習に入る。
3. 全文を3つに分け、一人1ブロックずつ数人に発表してもらう。
4. 全員の発表がすんだら、数人の受講生から「家庭や職場での体験」を話してもらい皆で意見交換する。(下枠参照)

1. 5年になります。

「5年」は、右手五で左拳を一周する表現。(5年間を表す)

「なる」は、左掌に右手人差指側を付ける<時の経過>の表現。

困ったこと・悔しいこと

「こと」は<経験>で表す。または、左二指を代名詞的に使う。

2. 話の聞き違いから

<(受動態)説明される/聞く/誤解/結果、または理由>

上司に怒られ

(上司の位置から)怒られる。

落ち込んだこと

<気持ち/下降/経験>

用件 <用事/内容>3. 要領

<(行う)/方法>

毎週

左四指を右人差指でなぞる、カレンダー由来の表現を指導する。

◇ さあ、頑張って表してみよう！

1 私は銀行に勤めて、5年になります。

職場では、難聴者は私一人だけで、他は全部健聴者です。

入社した頃は、コミュニケーションがうまく出来ず、困ったことや悔しいことがありました。

2 私は普通に話せるので、聴覚に障害があることをなかなか理解してもらえませんでした。

3年前、話の聞き違いから大きな失敗をし、上司に怒られとても落ち込んだことがありました。

それからは、大事な用件は書いてもらうようにしています。

3 同僚にも助けってもらいながら要領も覚え、今では責任のある仕事もしています。

毎週土曜日の夜、手話サークルに通って勉強しています。

友達も増え、休日には旅行に行ったり、映画を観たりして過ごしています。

## ～ 体験を話してみよう ～

例文のような体験は、受講生一人ひとりにもあるはずです。職場や家庭における悩み、解決への工夫などを語ってもらいましょう。「他では話せないことでも、ここなら聴いてもらえる」「同じ立場だからこそ、共感できる」といった意識を共有し、ピアサポートの場にします。他の受講生にとっては、人の話を聴くことで自分を振り返る機会にもなります。

## 《 中 級 編 一 練 習 例 文 》

### ✕ 「1. 短文練習 (家庭生活)」～ <受動態の表現>

| (能動態)       |     | (受動態)     |
|-------------|-----|-----------|
| 1. 怒 る      | ・・・ | 怒られる      |
| 2. 手伝う      | ・・・ | 手伝ってもらう   |
| 3. 申し込む     | ・・・ | 申し込まれる    |
| 4. 頼 む      | ・・・ | 頼まれる      |
| 5. 断 る      | ・・・ | 断られる      |
| 6. ファックスをする | ・・・ | ファックスをもらう |

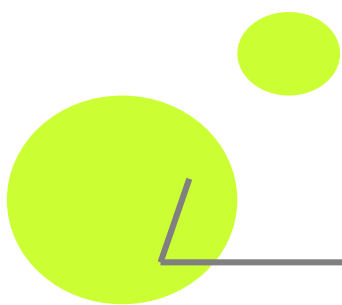
### ✕ 「5. 短文練習 (医療)」～ <友達との会話>

- A 「この間、動悸がするって言ってたけど、その後どう？」  
B 「一応病院で診てもらったら、狭心症の疑いがあるって言われて…」  
A 「え～っ、ホント？ それで？」  
B 「しばらく入院して、精密検査を受けることになったの」  
A 「あら～！でも早く見つかって良かったかも。入院はいつ？」  
B 「来週の月曜から。多分、一週間くらいだと思う」  
A 「お見舞い、行ってもいいかな？ 何か必要なものある？」  
B 「ありがとう、大丈夫。ところであなたは最近、調子はどう？」  
A 「私はまあまあなんだけど、実は夫(妻)がちょっと血圧が高めでね。できるだけ歩くように言ってるんだけど…」  
B 「それは 心配だね。お大事に！」

### ✕ 「7. 短文練習 (反対語を使って)」

1. 明日の講演会、参加費は無料ですが、資料は有料です。
2. 曖昧な手話は読み取れないので、はっきり表現しましょう。
3. 待ち合わせのときは、遅れないように早めに行きます。
4. 旅行カバンは、行きは軽いけれど帰りはいつも重くなります。
5. 無駄使いはいけません。節約して貯金しましょう。
6. 今月の家計は赤字！来月は黒字になるよう気をつけます。
7. 週末の映画館は混み合いますが、平日は空いています。
8. 私の報告に漏れがありましたら、補足してください。





## < 上級編 >

---



## 到達目標、及びカリキュラム

### 到達目標

◇日常会話がスムーズにできるのがねらいです。

言葉を追って手話表現するだけでなく、話の内容を捉え、意味を考えながら「手の形」「手の位置・動き・方向」などに注意して、わかりやすい表現に慣れましょう。

**表現技術**…手話の基本文法の中から、位置関係・指さし・空間や指の代理活用など、これまでも少しずつ紹介してきた表現を、理論をまじえ本格的に学習します。

**習得語彙数**…上級編では 125語(擬音語・擬態語除く)の新出単語を学び、テキスト掲載語だけでも総計849語を習得することになります。この他にも講師作成の例文等でも多くの単語を指導し、日常会話に十分な語彙数の習得を目指します。さらに、上級課程では、この日本語にはどの手話単語が相応しいか、また、この手話表現にはどの日本語が適切か、など、文脈に合った語彙を選択する力も養います。

### カリキュラム

上級課程では、基本の日本語対応手話に加え、位置・空間、方向、表情、指さしなど、手話の特性を取り入れた学習をします。これらは時に受講生を悩ますこともありますが、カリキュラムも1単元を2～3回にわたって組み、十分な振り返りの時間を設けています。指導にあたっては、補助教材の工夫が欠かせません。料理に例えれば「テキストは食材」「講師が料理する」「味付けはプリント」と言われます。本書掲載の練習例文をプリント作成に役立てて下さい。毎回の講座のはじめには、身近な出来事などを受講生に短く話してもらい、良いでしょう。難聴スタッフの体験談からも、さまざまな気付きが得られます。修了式には、2年間の学習の成果としての「発表会」を設けています。受講生にとっては学習の集大成。スタッフ一丸となってサポートしましょう。

## ＜ カリキュラム～上級編 ＞

テキスト「豊かなコミュニケーション」上級編は、  
合計40時間（1講座2時間×20回）で修了すること想定し作成しています。  
講座の回数は、開・閉講式の有無などそれぞれの地域の状況に応じて調整しましょう。

| 回数  | テキスト                   | 学習の目標                  |
|-----|------------------------|------------------------|
| 1回  | 開講式・オリエンテーション・自己紹介     | 上級学習のねらい、進め方           |
| 2回  | 復習(入門・初級テキスト)          | 基礎単語・基本文法の確認           |
| 3回  | 復習(初級テキスト)             | 初級手話の定着・基本文法の確認        |
| 4回  | 復習(中級テキスト)             | 中級手話の定着                |
| 5回  | 「1. 会話の練習(手話サークルで)」①   | 1対1の関係でスムーズな会話表現を目指す   |
| 6回  | 「1. 会話の練習(手話サークルで)」②   | 位置や表情の大切さを理解する         |
| 7回  | 「2. 表現練習」①             | 意味・内容に対応した手話表現の工夫      |
| 8回  | 「2. 表現練習」②             | 表情や身振りなどイメージを共有する      |
| 9回  | 「3. 擬声語・擬態語の表現」①       | 日常の中の音や動作、状態などの表現      |
| 10回 | 「3. 擬声語・擬態語の表現」②       | 個性豊かな手話表現の工夫           |
| 11回 | 「4. 表現技術(手の位置と動き・方向)」① | 位置・方向に留意し、見て分かりやすい表現   |
| 12回 | 「4. 表現技術(手の位置と動き・方向)」② | 「誰が」「誰に」を分かりやすく表現する    |
| 13回 | 「4. 表現技術(手の位置と動き・方向)」③ | これまで学習の習得度を確認する        |
| 14回 | 「5. 手話の多様性」①           | 手話の語彙を豊かにする            |
| 15回 | 「5. 手話の多様性」②           | 多くの同音異義語の事例を学ぶ         |
| 16回 | 「5. 手話の多様性」③           | これまでの学習の習得度を確認する       |
| 17回 | 「6. 長文練習」①             | 文章から手話講習会で学ぶことの意義を読み取る |
| 18回 | 「6. 長文練習」②             | 長文の表現にチャレンジ            |
| 19回 | 修了時の「発表会」の出し物の相談       | 自分の体験など手記を書き、手話表現を考える  |
| 20回 | 出し物練習                  | スピーチ文を手話で表す練習          |
| 21回 | 出し物最終仕上げ               | 出し物全体の構成を考え、共通理解を深める   |
| 22回 | 修了式                    | 修了証授与・手話を学び続けるために      |



## 学 習 の 目 標

◇ 1対1の関係でスムーズな会話表現を身につける。

## 指 導 の 進 め 方

1. 例文中、表現のわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
2. 下の表現ポイントについて解説する。
3. 全員で実際に表現してみる。
4. ペアで会話練習～一組ずつ発表する。

●お互いの顔を見て会話する楽しさを実感できるスタート。2人で会話していることを意識して表現することがポイント。

## 1 会 話 の 練 習 ( 手 話 サ ー ク ル で )

A : 今度の日曜日、中途失聴・難聴者の集いがあるけれど、一緒に行きませんか？

B : **場所と時間**は？

A : ○○にある○○会館で、午後1時から。

B : 行っても構わないけれど、記念講演は誰？

A : 小説家の○○さん。他にも楽しいアトラクションもあるし、ぜひ**行きま**しようよ。

B : 昼食をどこかで一緒に食べて、それから行くのはどう？

A : いいわね！ ○○駅の近くに、おいしい日本料理のお店があるの。

B : 和食は**大歓迎**だけど、高い？

A : **それがそうでもないの。**特に**その**『おすすめ定食』が**評判**よ。

B : じゃ、**そこ**に決めましょう。でも、お昼時は混んでるでしょう？

A : そうなの、だから**お昼にはちょっと早い**けれど、午前11時半に、駅の改札口を出たところで待ち合わせましょう。

B : 分かりました、楽しみにしています。

- 59 -

B. **場所と時間は？**

<場所+何/時間+いくつ>

A. **行きましようよ。**

行く方向に留意。別の空間に。

B. **大歓迎**

<歓迎>の表現も指導するが、ここは<大/楽しい>が適切。

A. **それが そうでもないの。**

首を振りながら<違う>、または<安い>の表現。

**その**(『おすすめ定食』が)

「そこ」は、前に表した「日本料理のお店」の空間を指さす。※

**評判**よ。

<評判/良い>、または

<人気・有名>

B. **そこに(決めましよう。)**

前記※「そこ」と同じ空間を指さす。

A. **お昼にはちょっと早い**

<昼/少し/早い>、または

<昼/手前>。「手前」は肩越しの過去形ではないので注意。

<「けれど」の表現>  
難聴者同士の手話では、「けれど」も言葉通り、ごく自然に<しかし>を表している。文法的には逆接として機能しないものが多いが、日本語の会話では慣習的に使われているもので、難聴者は読み取る際にも手話だけでなく口形も一緒に読み取り、文脈を捉え理解するので誤解は生じにくい。一方、日本手話では、厳密な逆説ではない「けれど」は表現しない。※「難聴者的表現」と「ろう者的表現」の違いを解説する。

## 留 意 点

○日本語を話しながらの会話なので、まずは対応手話でしっかり表現できるよう指導する。次に、位置関係、表情など手話の特性を考えた表現を指導する。その際、声と手話のリズムが不自然にならないような表現を心がける。



## 学習の目標

●手話だけでなく身振り・表情を用いて感情や状況を表現する。

◇ 意味・内容に対応した手話表現の工夫。

## 指導の進め方

1. この単元の学習のねらい（下枠内を参照）を説明する。
2. 例文中の下線部はどのような意味で使われているか、受講生に考えさせ、その手話表現を集め板書する。
3. 下の表現ポイントを解説し、講師が代表例の表現を見せる。
4. 全員で表現練習～ペアで練習～個人での表現発表。

●例文 3.の「専門家の彼でさえ」は、比較・強調の意味で「指さし」を使う。一方、しっかり言葉を伝えたいとして「さえ」を指文字で表現することもある。例文 6.の「少ししか分かりません」も同じで「しか」を指文字で表現することもある。

## 1. (今年)こそ

「今年」を強調。＜絶対、決意＞

2. べき

＜必要、または規則＞

3. さえ

「彼」を指さす。強調の意味。

4. つい

あっ！という表情。

手話は、＜あっという間！＞

5. はず＜予定＞で表す。6. 少ししか分かりません。

＜少し／分かる＞、または

＜ほとんど／わからない＞。

意味を掴んだ言い換えの表現。

7. ふと(気づいたら)

「気付く」にかかる。本から顔を上げ窓の方向を見る。表情が大切。

8. きり(音沙汰なしです)

＜だけ＞、または＜終わり＞を強く表す。「音沙汰無し」は＜その後／連絡(手前に向けて)／なし＞

◇ 下線の部分をどう表現すれば、正しく伝わるか工夫しましょう。

1. 今年こそ、長年抱いてきた夢を実現したいです。
2. いつ、親に言うべきか迷っています。
3. 専門家の彼でさえ知らなかったとは、意外でした。
4. おしゃべりが楽しくて、つい時間の経つのを忘れてしまいました。
5. 今日、会議があることは前に言ったはずです。
6. あなたのお話は、回りくどくて少ししか分かりません。
7. 読書に夢中になり、ふと気づいたら夜が白々と明けかけていました。
8. 独立した息子は、先月遊びに来たきり音沙汰なしです。

●中途失聴・難聴者は、頭に浮かんだ言葉をそのまま手話置き換えて会話をしますが、この単元の下線部のように、いざ手話で表そうとすると、はたと困ることがあります。他の言葉に言い換えても良いのですが、言葉の機微や言い回しの妙などを味わいながらの会話に慣れ親しんできた難聴者は、時に「どうしてもこの言葉で伝えたい」と思ったりもします。そんなとき、どのような手話表現をしたらこの言葉を使えるか、工夫してみましょう。

# 3 擬声(音)語・擬態語の表現

## 学習の目標

◇ 日常の中の音や動作、状況などを具体的に表現する。

## 指導の進め方

1. 例文中、表現がわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
2. 囲みの中の単語をどうイメージするか、一人ひとり聞いていく。
3. それぞれの表現ポイントを解説、全員で実際に表現してみる。
4. ペアで表現練習～個人での表現発表。
5. p.51 の例文を表現練習する。

●日常生活によく使われる擬声語・擬態語の代表的な表現方法を学ぶ。

【表現の工夫】  
ドーンドーンという太鼓の音や「ドアをバタンと閉める」の例にあるように、日本語の長さ、手話が必要とする時間が違うのでしっかりと間合いを合わせて表現すること。

●受講生同士で、テキスト囲みの中の言葉表現を表現し合いましょう。擬声語・擬態語は人によって言葉の捉え方が違うので、思いがけない表現がみられるかもしれません。  
・「パチパチ」(拍手・算盤・火花)  
・「ブーブー」(豚、車、ブーイング)  
・「チリンチリン」(自転車、風鈴)など。

**3 擬声(音)語・擬態語の表現**

擬声(音)語——実際の物音や鳴き声などを表現した語  
擬態語——物事の状態や身振りなどを、いかにもそれらしく表現した語

◇ これらの手話表現は、一定していないことが多いのでその音や様子を模倣したり、手話や指文字を活用するなどして表します。

**擬声(音)語**

1. ドーンドーンという太鼓の音は、体にも響いてよく分かります。
2. ドアをバタンと閉めるのは、周りに不快な思いを与えます。

|      |      |       |        |
|------|------|-------|--------|
| ガチャン | パチパチ | ポトポト  | ヒューヒュー |
| サラサラ | ブーブー | トントント | チリンチリン |

**擬態語**

1. 彼からのプレゼントは何かなあっと考えると、ワクワクしてきます。
2. すごいどしゃ降り、洋服がビショビショに濡れてしまいました。

|      |      |      |        |
|------|------|------|--------|
| クタクタ | ウルウル | モタモタ | ギョウギョウ |
| ズキズキ | ホトホト | ビシビシ | スラスラ   |

◇ 枠内の言葉を使って短文を作り、表現してみましょう。

-61-

### <擬声(音)語>

1. **ドーンドーン**  
大きく太鼓をたたく動作をする。そこまでが「ドーンドーンという太鼓の音」の表現になる。
2. **バタン**  
ドアを大きく手荒く閉める動きで「ドアをバタンと」の表現になる。

### <擬態語>

1. **ワクワク**  
<嬉しい>。手の動きだけでなく気持ちが沸き上がるように嬉しそうな表情。
2. **ビショビショ**  
「すごい」は、どしゃ降りを強調。「ビショビショ」は、洋服を指して<濡れる>の手話。できたら最後に洋服を「絞る」動きがほしい。

## 留意点

○顔の表情、身体の動き、手の速い・遅いなどで感情を表現できるよう、繰り返し指導する。手話による会話をより楽しくするために、受講生の感性で自由に表現させ、その中から個性豊かな表現を見出してあげることも大切。

## 学習の目標

◇ 位置・方向に留意して、見てわかりやすい表現にする。

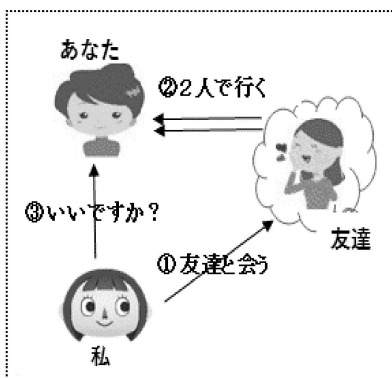
## 指導の進め方

1. 例文について単語表現を確認する。
2. 表現指導の前に、右ページの「学習のポイント」を説明する。
3. p.44,45 の〈表現のポイント〉を解説し、講師が表現例を見せる。
4. 全員で表現練習～ ペアで練習～ 個人での表現発表。
5. p.51 の会話文を表現練習する。

●わかりやすい表現のためには「見る言葉」の特徴である空間をうまく使うことが大切。「自分」と「相手」だけでなく「第三者」が加わると、空間、方向、視線などかなりハードルが高くなるが、受講生にとってはこの単元の習得がレベルアップポイントとなる。

●表現練習では、位置・方向に間違いがないか、しっかりアドバイスすること。（右イラスト参照）

## &lt;自分・相手・第三者&gt;



## 4 表現技術（手の位置と動き・方向）

◇ 手話は、位置や動作の方向に留意して表現すると、とても分かり易くなります。

## 行 く …誰がどこに…

1. 明日、必ず行きます。
2. 明日、必ず来て下さい。
3. 明日、必ず行って下さい。
4. 私が行きましようか？ それとも、あなたが来てくれますか？
5. 友達と会って、それから二人で行ってもいいですか？
6. 二人でも三人でも構いません。一緒に来て下さい。

## 見 る …誰が何を…

1. 前に見たことがあります。
2. じろじろ見ないで下さい。
3. ぐるっと見回しました。
4. 大勢の人に見られてしまいました。
5. こちらに注目して下さい。
6. 偶然、目と目が合いました。

## 説明する …誰が誰に…

1. その問題は、私が説明します。
2. その問題は、あなたから彼に説明して下さい。

-62-

## 楽しく表現練習！

- 少人数で単語カードを使って“誰が・誰に”を練習するのも効果的です。
- ①各自が、誰カード2枚+動詞カード1枚、計3枚のカードを取る。
  - ②3人以上が出てくる文を作り、手話表現を考える。
- 例) ・兄に頼んだけど、断られたので妹に頼みました。  
 ・課長から連絡があったら、すぐ皆さんにファックスします。  
 ・私は毎週、手話講習会で教わったことを、息子(娘)に教えています。

## 学習のポイント！



テキストの「行く」の例文を使って、

(ヒント)をもとに表現を考えましょう。

1. 行きます。 ( 誰が・どこに？ )
2. 来て下さい。 ( 誰が・どこに？ )
3. 行って下さい。 ( 誰が・どこに？ / 誰が・誰に？ )
4. 私が行く？ あなたが来る？ ( 手は2本ある！ )
5. 友達と会って、二人で行く。 ( 時制・空間を考えて！ )

3. 私が説明した通りに、彼に言いましたか？
4. あなたの説明と、彼女の説明が違うので困りました。

### 連絡する …誰が誰に…

1. 私から彼に連絡しました。
2. 私があなたに連絡しますから、それを彼に連絡して下さい。
3. あなたが私に連絡してくれれば、私が皆に連絡します。

### 頼む・断る …誰が誰に…

1. 交流会の司会をお願いします。
2. それは前に、彼から頼まれた時に断りました。
3. 誰と誰にお願いしましたか？
4. いろんな人に頼みましたが、皆に断られました。

### 言う・話す …誰が誰に…

1. 先輩に言いました。
2. 先輩に言われました。
3. 先輩に言っておきます。
4. 先輩に言っております。
5. 先輩に言っておいて下さい。
6. 先輩が言ったことを話して下さい。

-63-

## 誰 カード

私・友だち・父・母・兄・姉・弟・妹・彼・彼女・息子・娘  
社長・課長・先輩・後輩・皆 など

## 動詞 カード

FAX する・メールする・話す・言う・説明する・ほめる・頼む  
連絡する・断る・教える・助ける など

## 表現のポイント

### 行く

…誰がどこへ…◎

教室で学習しているときの例では、講師が受講生に「〇〇さん、廊下に行って！」と具体的に表すとわかりやすい。

### 見る

<「見る」の手話>

- ①目(指文字「メ」)
- ②人差指
- ③二指(二指に関連し全指もある)

受動・能動、方向性を表せるのは、③の二指と全指だけ。  
例文 2.～6.では、二指と全指を使う。

### 行く …誰がどこへ…

1. **明日、必ず行きます。**  
<明日／絶対、または約束／行く／(私)>。「行く」方向に注意。
2. **明日、必ず来てください。**  
<明日／絶対、または約束／来る(あなた)／お願い>。「来る」方向に注意。  
「下さい」とお願いしているのは私。私とあなたの関係。
3. **明日、必ず行ってください。**  
<明日／必ず／行く(別の空間へ)／お願い>。「行く」方向と「お願いする」方向を考えて表す。
4. **私が行きましようか？それとも、あなたが来てくれますか？**  
<(右手・私)が行く／(左手・あなた)が来る>＝少し行く・少し来る関係。  
最後に<左右の中間位置で><どちら？>の手話が入ってもよい。
5. **友達と会って、それから二人で行ってもいいですか？**  
<友達(空間)／会う／(その後)／(あなた空間に)一緒に行く／構わない／か？>。  
時間の流れが出ているので「それから」は省いてもよい。※前のページのイラストを参照。
6. **二人でも三人でも構いません。一緒に来てください。**  
<二人／また／三人／構わない(または大丈夫)／一緒／来る／お願い>。  
「来てください」は<誘う>だけでもよい。

### 見る …誰が何を…

1. **前に見たことがあります。**  
<以前／見る(指文字「メ」)／経験／ある>。「見た」は<(「メ」を下に落とす)>表現もある。
2. **じろじろ見ないで下さい。**  
<(自分に向けた二指を上下に動かす＝受動態)見られる／(それを)断る・止める>違和感。
3. **ぐるっと見回しました。**  
<(二指で)見回す>。左から右へ広がりを出す。
4. **大勢の人に見られてしまいました。**  
<(両手二指で、いろいろな方向から交互に)見られる>。  
※気持ち(うれしいのか、嫌なのか)が入ると【同時的表現】になる。
5. **こちらに注目して下さい。**  
<(両手全指の指先を自分に引き寄せ)注目／お願い>。たくさんの「目」で一斉に見られる様。
6. **偶然、目と目が合いました。**  
<(両手二指をぴたっと向かい合わせ)目と目が合う>。動きを早くすることで偶然らしさが出る。

### 説明する …誰が誰に…

1. **その問題は、私が説明します。**  
別の空間を想定し、その方向に「説明する」<それ／問題／私／説明／(担当)>
2. **その問題は、あなたから彼に説明して下さい。**  
<それ／問題／(あなた→彼空間に)説明／お願い(私→あなた)>

### 3. 私が説明した通りに、彼に言いましたか？

＜私／(あなたに)説明／同じ／あなた／彼／言った／(あなたに)か？＞

### 4. あなたの説明と、彼女の説明が違うので困りました。

＜あなたの説明／彼女の説明／ずれる、または違う／困る／(私)＞

※あなた(空間)と、彼女(空間)を分けて表す。

## 連絡する …誰が誰に…

#### 1. 私から彼に連絡しました。

＜(私→彼)連絡／終わり＞。目線は「あなた」、連絡する方向は「彼」。

#### 2. 私があなたに連絡しますから、それを彼に連絡して下さい。

＜(私→あなた)連絡／(あなた→彼)連絡＞方向に注意。＜「下さい」(私→あなた)＞

#### 3. あなたが私に連絡してくれれば、私が皆に連絡します。

＜(あなた→私)連絡／(私→「皆」の空間で少しずつずらして)連絡／連絡／連絡＞。

「皆に連絡します」は、意味を捉え両手で＜メール／メール＞でもよい。

## 頼む・断る …誰が誰に…

#### 1. 交流会の司会をお願いします。

＜交流／会／司会／(担当)／お願い＞

#### 2. それは前に、彼から頼まれた時に断りました。

＜以前／(彼→私)頼まれる／時／(私→彼)断る／終わり＞ 「頼む」「断る」の方向に注意。

#### 3. 誰と誰にお願いしましたか？

＜誰／(左一指)／誰／(左二指)／頼む／か？＞

#### 4. いろいろな人に頼みましたが、皆に断られました。

※【繰り返しの表現】により、見てわかる簡潔な手話表現になる例。

＜(方向を少しずつずらし)頼む／頼む／頼む／

(頼んだ位置に戻って)断られる／断られる／断られる＞。「頼む」「断られる」は同数にする。

## 言う …誰が誰に…

#### 1. 先輩に言いました。

＜先輩／言う(私→先輩)／終わり／私(指さし)＞※最後に自分を指さし、「誰が」を明確にする。

#### 2. 先輩に言われました。

＜先輩／言われる(先輩→私)＞

#### 3. 先輩に言っておきます。

時間軸を考えて表す。＜今度／先輩／言う(私→先輩)／(予定)／私(指さし)＞

#### 4. 先輩に言っております。

時間軸を考えて表す。＜以前／先輩／言う(私→先輩)／(終わり)＞

#### 5. 先輩に言っておいてください。

＜先輩／言う(あなた→先輩)／お願い(私→あなた)＞

#### 6. 先輩が言ったことを話してください。

＜先輩／言う(先輩→あなた)／内容／話す(あなた→私)／お願い(私→あなた)＞

## 学習の目標

●意味の違いを意識し、表情や視線などを含め微妙なニュアンスが伝わるよう工夫を試みる。いろいろな表現ができるので、指導の際には難しい面もあるが、受講生の自由な発想や表現を尊重して進める。

## ◇ 手話の語彙を豊かにする。

一つの日本語に対して手話はいくつもの表現をとることがよくあります。意味に合った適切な手話表現を考えましょう。手話にその言葉がない場合は、その意味に近い単語に置き換えて表現します。たくさんの用例に接し、使用できる手話の幅を広げましょう。

◇ 日本語には、表音と同じ語がいくつもあります。どのような意味で使っているのかに留意して、表現方法を考えましょう。

- [A] 1. 小さい頃から、絵を描くことが好きでした。  
2. 私は、以前大阪に住んでいたことがあります。  
3. 今、話されたことは了解しました。
- [B] 1. 久しぶりによく晴れて、すがすがしい朝です。  
2. 彼は、日本の歴史について、よく知ってます。  
3. 気をつけているのですが、よく忘れ物をします。
- [C] 1. 私の会社の夏休みは、8月10日から16日までです。  
2. 言われた通りに薬を飲まないから、風邪が治らないのです。  
3. その話は、仕事が済んでから相談しましょう。
- [D] 1. うれしくて、夢のようです。  
2. 彼が言ったように思います。  
3. 忘れ物のないようにしてください。

手話の語彙を  
増やすには！

## &lt; 会話をしましょう！ &gt;

- ① 2人一組(aさん、bさん)でテーマを決めて会話をします。  
テーマは身近な題材から1つ。「マイブーム」「苦手なもの」など
  - ② 次にもう一組(cさん、dさん)と組んで4人組になり、
    - ①で話し合ったことを、aさんはbさんについて、bさんはaさんについて…  
というように、4人で互いのことを紹介していきます。
- ※伝え合い、話を聞き、分かり合えることの大切さを実感しましょう。

## 指導の進め方

1. 例文下線部の日本語の意味を考えて、どの手話がふさわしいかを話し合う。
2. p.48,49の〈表現のポイント〉を解説し、講師が表現例を見せる。
3. 全員で実際に表現し～ペアで表現練習～個人での表現発表。
4. 〈参考例文～「こと」「よく」「よう」〉の表現練習を行う。
5. p.51の練習例文を使って表現練習を行う。

- [E] 1. 私は、そんなつもりで言ったのではない。  
 2. 仕事が遅っているので、旅行には行かない。  
 3. 忙しくて、寝る時間もない。
- [F] 1. 今、聞いたばかりなのに、もう忘れました。  
 2. 知らない人ばかりで、緊張しました。  
 3. 1時間ばかり前に家を出ました。
- [G] 1. 朝夕の電車は、通勤客でいっぱいです。  
 2. 病気のため、今月いっぱい休ませていただきます。  
 3. 感動のあまり、胸がいっぱいです。
- [H] 1. 雨があがる。  
 2. 給料があがる。  
 3. 熱があがる。  
 4. 腕があがる。
- [I] 1. お金をつかう。  
 2. 頭をつかう。  
 3. 相手に気をつかう。  
 4. 時間をうまくつかう。

◇ この他にもいろいろあります。どのような言葉があるか、皆で出し合ってみましょう。

- 65 -

### 〈参考例文〉

#### 「こと」の手話

1. 仕事のことは、家庭に持ち込まない (内容)
2. えっ、それってどういうこと (意味)
3. インフルエンザで死ぬこともある (場合)
4. その映画なら前に観たことがある (経験)
5. そこまで言うことはない! (不要)
6. 趣味は、食べること、寝ること、遊ぶこと(手指)

#### 「よく」の手話

1. よく仕事をする (一生懸命)
2. よく眠れた (十分)
3. よく眠れない (右目横で右手二指をパチパチ)
4. よくできました (相手に拍手)
5. よく噛んで食べる (両拳で咀嚼する様子)
6. この絵はよくかけている (上手)
7. よく映画をみる (たびたび)
8. よく似ている (非常に・そっくり)
9. 遠いのによく来たね (ご苦労)

#### 「よう」の手話

1. 雨が降るようだ (想像・思う・様子)推量
2. 彼、結婚したようだよ (聞く)伝聞
3. リンゴのようなほっぺ (似ている) 比喻
4. 春のような暖かさ (同じ・似ている)類似
5. 合格するように頑張るぞ! (ために)目的
6. 試験に受かりますように (祈る)願望



## 表現のポイント

### [A] こと

1. 小さい時から、絵を描くことが好きでした。  
＜絵＞に筆を走らせる動きで「絵を描くこと」までを表す。  
「こと」の手話は省略できる。
2. 私は以前、大阪に住んでいたことがあります。 ＜経験＞
3. 今、話されたことは了解しました。 ＜内容＞

### [B] よく

1. 久しぶりによく晴れて、すがすがしい朝です。  
手話は「快晴」。＜晴れる＞を強く表す。  
目線は空。全体を通して表情が大切。
2. 彼は、日本の歴史について、よく知っています。  
＜十分＞または＜詳しい・何でも・いろいろ・深く＞など。
3. 気をつけているのですが、よく忘れ物をします。  
＜いつも＞または＜しばしば・たびたび＞など。

### [C] から

1. 私の会社の夏休みは、8月10日から16日までです。  
※空間を活用した二種の表現方法を指導する。  
①右掌を左に払う＜から＞の表現。  
「8月10日から」を右空間、「16日まで」を左空間に分けて表す。  
・「8月10日から」と「16日まで」を同じ空間で表現したものと、  
左右空間に分けた表現では、どちらがわかりやすいかを見比べる。  
少し左右に分けて表すと、時間の経過がわかり見やすくなることを説明する。  
②人差指＜～＞で表す方法。  
この場合は、左右空間の使い方が①とは逆になることを補足する。
2. 言われた通りに薬を飲まないから、風邪が治らないのです。  
＜理由＞または＜ので＞
3. その話は、仕事が済んでから相談しましょう。  
＜あと＞「仕事が終わった後」の表現になる。

### [D] よう

1. うれしくて、夢のようです。 ＜同じ・みたい・!!(二指で空書)＞(類似、比喻)
2. 彼が言っていたように思います。 ＜!!＞(推量)
3. 忘れ物のないようにして下さい。 ＜!!・きちんと＞または＜注意＞に置き換え。

### [E] ない

1. 私は、そんなつもりで言ったのではない。 <違う>
2. 仕事が溜まっているので、旅行には行かない。 <ない>否定・打消し。
3. 忙しくて、寝る時間もない。 <無い>

### [F] ばかり

1. 今、聞いたばかりなのに、もう忘れました。 <突然> <あっという間>
2. 知らない人ばかりで、緊張しました。 <多い>
3. 1時間ばかり前に家を出ました。 <くらい>

### [G] いっぱい

1. 朝夕の電車は、通勤客でいっぱいです。  
<混雑>(混みあう様)。「通勤客」は<通勤/人々>で表す。
2. 病気のため、今月いっぱい休ませていただきます。  
<間>。「今月」は<今/月>  
または、具体的な数字を出して<該当月の数字/月>で表す。
3. 感動のあまり、胸がいっぱいです。  
<左手を胸に当て、下に向けた右掌を上にあげる>  
「感動」も「胸がいっぱい」も手話では「感動」1つで済むが、  
ここでは例文に合わせて、「感動」と「充実」を使って表現する。

### [H] あがる

1. 雨があがる。 <やむ>
2. 給料があがる。 <昇給(給料の左手をそのままに、右手お金を上げる)>
3. 熱があがる。 <わきの下に挟んだ体温計が上がる様>
4. 腕があがる。 <技術/上がる・向上>

### [I] つかう

1. お金をつかう。 <金/使う>
2. 頭をつかう。 <頭/考える・繰り返す・回転>
3. 相手に気をつかう。 <相手/考える・世話する>
4. 時間をうまくつかう。 <時間/調整する>

## 学習の目標

●中途失聴・難聴者が手話講習会で学ぶことの意義を読み取り、共通理解を深める。

## ◇ 長文の表現にチャレンジ！

## 指導の進め方

1. 文章を読み、中失・難聴者が手話を学ぶことの意義を確認する。
2. 文中の表現がわからない単語を聞き出し、表現を指導する。
3. 下記の表現ポイントを解説し、全員で表現練習する。
4. まずは一人1行ずつ表現し、全員に回していく。
5. 段落ごとにペアで練習～個人で全文の表現を発表する。

## 【表現の工夫】

長文表現では、1. 3. 7. のように「これ、それ、あれ、どれ」などの指示代名詞(コソアド言葉)がよく出てくる。前の文の何を指しているかを考え、その言葉をもう一度表現する、あるいは前に表した空間を指さすなど、意味が伝わるよう工夫する。

## 6. 「少なくない」

手話の世界では、<多い>と言い換えるのが一般的。一方、難聴者は、その言葉のままに表すことが多い。※「ろう者的表現」と「難聴者的表現」を解説する。

1. これらの講習会では、

「東京都障害者福祉会館」と「多摩地域」の空間を分けて表し「これら」両方を指さす。

2. 途切れることなく…

<続く・順調に>

3. それは、

前に表した目的の空間を指さす。

4. 通ってくる

<通う(一回表現)／来る(両手人差指で複数回表現)>

5. 疎外された

<除け者にされる(受動態)>。「会社の同僚」の空間と「家族」の空間を作れば、そこから自分が「外された」ことがわかりやすくなる。

6. 少なくない。

<少ない／ない(否定)>。または<多い>に言い換える。

7. そのような人が、

前に表した「孤独で寂しい…人」の空間を指さす。

8. 勇気を見出す<勇気／発見>

## 留意点

○手話学習の総仕上げ。位置・方向・指さし・空間などの手話文法を含んだこの長文に挑戦し、表現し終えた受講生の努力をたたえてあげましょう。

中途失聴・難聴者対象の手話講習会が、東京都障害者福祉会館で開講されたのは昭和50年10月。さらに多くの要望に応じて、平成4年4月には多摩地域でも開講されるようになった。これらの講習会では、毎年途切れることなく受講希望者があり、ここで学んだ人達は中途失聴・難聴者団体や地域で活動している人も多い。

この講習会は、一般の手話講習会と違った目的がある。それは手話を学び覚えるということは当然であるが、その他に仲間作りというのが大きなポイントになっている。

毎週金曜日、講習会に通ってくる受講生の中には、コミュニケーションの方法が分からず、会社の同僚や家族からも疎外されたような気持ちになり、孤独で寂しい生活を送っていたという人が少なくない。

そのような人が、同じ障害のある人達と出会い、手話の学習を通しコミュニケーションを取り戻すことによって、生きる勇気を見出す。こういった心のリハビリを兼ねているこの講習会は、まだ仲間の存在を知らない孤独な中途失聴者や難聴者を温かく迎え、再び積極的に生きるための心の準備をする場として、今後も大切な役目を担い続けていくことでしょう。

## 《 上 級 編 一 練 習 文 例 》

### ✕ 「3. 擬声語・擬態語の表現」

1. ドアを開けると、ヒューヒュー風が入って寒い。
2. 熱があがって、頭がズキズキします。
3. 8時間も山を歩いたのでクタクタです。
4. 手話劇に参加した時、足がガタガタ震えて困りました。
5. 段ボールに服をギューギュー詰め、宅配便で送りました。
6. 彼は、私の質問にスラスラ答えました。

### ✕ 「4. 表現技術 (手の位置と動き・方向)」 会話練習文

- A : 来週の日曜日、山登りに行かない？  
B : いいですね、同じ人事課の山口さんも山登りが趣味ですって。  
誘っていいですか？  
A : いいですよ。山口さんにはあなたが連絡してくれる？  
私が連絡しましょうか？  
B : 明日、会社で山口さんに会うので、私が言っておきます。  
A : お任せ。もし山口さんが無理なら、すぐにメールしてよ。  
B : わかりました。たぶん、大丈夫だと思います。

### ✕ 「5. 手話の多様性」

「ない」

1. とくに何も考えはない。 (無い・頭がからっぽ)
2. お母さんが悪いのではない、お父さんよ。 (違う)
3. 海外旅行に行ったので、今は貯金がない。 (貯金／解消)
4. この辞書には載っていない。 (左掌上を右手で左右に払う)
5. 今日は、お土産はないよ。 (手ぶら)

「なる」

1. 私たち夫婦は結婚して50年になります。  
(経過…左掌に右手人差指を引き寄せる)
2. 入退院を繰り返していましたが、ようやく元気にになりました。  
(元に戻る)
3. 庭の柿の木に実がなりました。 (果物)
4. 冬が終わって春にになりました。(向かい合わせた両掌を半回転)
5. 私が行くことになりました。 (決める)



# 「豊かなコミュニケーション」指導の手引き

( 初級編・中級編・上級編 )

【編集委員】 小橋由里子 坂山己世

長沼知子 橋本美知子

【監 修】 小林順子

【事務局】 中村みずほ

## 「豊かなコミュニケーション」指導の手引き

<初級編・中級編・上級編>

初版発行：2016年11月

発行責任者：理事長 新谷友良

発行所：特定非営利活動法人 東京都中途失聴・難聴者協会  
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-25-202  
Tel 03(5919)2421 Fax 03(5919)2563

印刷・製本：株式会社 美巧社



本書は日本財団の助成により作成されました。  
無断複写・複製を禁じます。